

文部科学省 平成 26 年度  
「課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業



# 山形発・地元ナース養成プログラム 平成 29 年度 活動報告書

公立大学法人山形県立保健医療大学



# 目 次

## 挨拶

I. 事業概要	5
II. 活動報告	
1. 学士課程教育	8
2. リカレント教育	14
3. 人事交流	30
4. 看護研究相談・支援	34
5. ICT 活用	37
6. 事業普及	40
7. 看護実践研究センター	49
8. 事業推進・評価	52

## 資 料

- ・ 公立大学法人山形県立保健医療大学「地元ナース養成プログラム事業」  
推進委員会規程
- ・ 山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営規程
- ・ 山形県立保健医療大学看護実践研究センター委員会要綱
- ・ 平成29年度 事業推進委員会・看護実践研究センター運営委員会名簿





## 平成 29 年度活動報告書の発行にあたり

事業推進代表者

山形県立保健医療大学理事長兼学長 前田 邦彦

平成 26 年度に文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の中の「地域での暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護師の養成」事業の一つとして採択されました「山形発・地元ナース養成プログラム」事業が、5 年度計画の第 4 年度目を終了しようとしております。本報告は、この第 4 年度目（平成 29 年度）の本事業の活動内容を総括し、広くご紹介するためにまとめられました。

本事業は、山形県のように、超高齢化と人口減少が進む一方で、公共医療・福祉機関や社会資源が限られた地域の住民の健康と QOL の向上に寄与するために、「地元ナース」を養成していこうとする取組みです。「地元ナース」という概念も大分浸透してきたかと思いますが、あらためて説明いたしますと、専門的な知識や技術だけでなく、利用者や地域住民の広範な健康問題、あるいは多様なニーズに幅広く対応できる総合力・実践力を身に付けた看護師と定義されます。医師の分野でも、あまりにも専門分化した臨床現場の現状から、「総合診療医」があらためて着目され、平成 30 年度より開始される新専門医制度では「総合診療専門医」が基本診療領域の一つとして位置付けられるにいたっています。ただし、「地元ナース」の場合、「地元」は、その土地で生まれ育ったという意味ではなく、地域に根ざしたという意味を込めておりますので、「地元ナース」は単に総合的な知識や技術を有する看護師というだけではなく、地域社会への係わり合いを重視した新しい保健医療専門職といえるのではないかと考えております。

本事業は、その活動が、学士課程教育、リカレント教育、人事交流、看護研究相談・支援、ICT 活用などの事業分野に分かれており、看護職をめざす学生、実際に従事している看護職等の皆様、および小規模施設の運営担当の皆様などに多段階の働き掛けをおこない、「地元ナース」の育成および普及をはかっております。本年度は、計画の第 4 年度目となり、各事業分野の体制構築が概ね完成し、分野相互の有機的な連携もはじまり、具体的な成果にも結び付いてきております。そのいくつかをご紹介しますと、学士課程教育分野では、教育課程に創設された科目（「地元論」、「ジェネラリズム看護論」、「相互理解連携論」）はいずれも非常に充実した授業を展開し、多くの学生の受講を得て、その教育効果が実感されるようになってきました。また、小規模施設での実習もはじまりました。一方、リカレント教育の分野では、実際に小規模の医療施設等で働く看護職を対象としたリカレント講座（ブラッシュアッププログラム）に多くの受講生があつまり、フォローアップ研修の追加受講や J ナースカフェによる学びの機会の提供もあって、「地元ナース」のロールモデルともいべき実践者がぞくぞくと育成されてきております。年度中盤には、ICT 分野が中心となって、「ICT 活用報告会」を開催し、事業の手段として、導入・改良にかかわってきた ICT が今後事業の拡大に有力なツールであることを再認識いたしました。本事業に協力いただいている医療・福祉施設もさらに増え、9 施設となり、人事交流や看護研究への支援も大幅に拡大しております。さらに、日本看護科学学会の交流集会をはじめ、多くの学会、研究会等での研究発表がなされ、本事業の学術・研究面での成果もあらわれてまいりました。

このように、今年度も本事業は順調に拡大・充実してきたと存じます。これもひとえに関係各位の献身的な取り組みによるものと、あらためて謝意を表すものです。本事業の成功は、本県のような実情を抱えている地域だけではなく、ひろく全国における様々な保健・医療・福祉の問題に対する解決策の一助にもつながると期待されております。来年度は事業の最終年度として、事業の内容の一層の充実、成果の評価・発信、さらに今後の事業継続の舵取りに繋げて行かなくてはならないと考えております。本事業のさらなる充実のために、本報告書をご一読の上、さらなるご指導・ご鞭撻をいただければ幸甚に存じます。

（平成 30 年 2 月 5 日記）



## I. 事業概要

山形発・地元ナース養成プログラムは、平成29年度で4年目を迎えた。今年度は、昨年度の文部科学省医学教育課の実施調査及び中間評価を踏まえ、事業を展開している。事業最終年度である平成30年度を迎えるにあたり、改めて、山形発・地元ナース養成プログラムのねらい及び今日の国及び山形県の政策課題との関係を中心に報告する。

### 1. 山形発・地元ナース養成プログラム

山形発・地元ナース養成プログラムは、平成26年度公募の文部科学省の課題解決型高度医療人材養成プログラムの選定を受けた事業である。課題解決型高度医療人材養成プログラムとは、「我が国が抱える医療現場の諸課題等に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成するため、大学自らが体系立てられた特色ある教育プログラム・コースを構築し、全国に普及させ得るべく、これからの時代に応じた医療人材の養成に取り組む事業を選定し支援する」ものである。

看護系大学の課題解決型高度医療人材養成プログラムのテーマは「地域での暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護師の養成」であり、全国66大学が応募し、5大学が選定された。選定された大学のうち公立大学は本学のみであった。

山形発・地元ナース養成プログラムは、大卒の地元ナースを養成する体系的仕組みの構築を目的としており、医療資源と公共交通機関が少ない地方の住民が頼りとしている、小規模病院・診療所、高齢者施設等（以下、小規模病院等）において、地元住民の多様な健康問題に幅広く対応（含む訪問看護）できる看護職の養成を目指している。地元ナースとは、本事業のために山形県立保健医療大学が作った言葉である。また、小規模病院の病床規模は200床未満（山形県内病院の51.5%）と設定し、高齢者施設等については看護職配置数が少ないため施設規模は問わない、こととしている。事業対象は県内すべての小規模病院等看護職である。事業評価・企画への参画は、協力病院/施設を募り依頼している。

本事業は、学生への教育だけでなく、現職の小規模病院看護職も地元ナースRM（大卒者のロールモデル）と位置づけ支援している。現職の小規模病院看護職を支援する意味は、以下の3点である。①小規模病院等看護職が自らの看護実践に関する自信を獲得することで、学生にとって小規模病院等看護職が魅力ある人々となる。②小規模病院等での臨地実習を開始する基盤を整えることで小規模病院等での実習が可能となり、学生が小規模病院等の看護の価値を知ることにつながる。③小規模病院等でのリカレント教育の方法・内容が確立することで、小規模病院等が魅力ある職場となる。

以上のように、山形発・地元ナース養成プログラムは小規模病院等と地元医療福祉の担い手に着目した事業である。

### 2. 山形発・地元ナース養成プログラムの主な事業内容

各事業の内容と成果は、本報告書の各項目を参照されたいが、用語について改めてかみ砕いて説明したい。①学士課程教育とは「大学生に対する教育」である。大卒の地元ナース養成の教育内容・方法を開発し、山形から全国に発信するとともに、学生が地元医療福祉の重要性を認識し、地元で就業する価値を理解できることを目指している。②リカレント教育とは「働いている看護職の学び直し」である。

本事業を通して、小規模病院等看護職の発展的な看護実践能力の向上を図るリカレント教育内容・方法を開発することを目指している。また、リカレント教育修了者が地元ナースのロールモデル（地元ナース RM）としての役割を担い、小規模病院等で行う臨地実習を実施・展開できるための基盤を形成したいと考えている。③人事交流については、「看護学科教員が小規模病院等へ、小規模病院等看護職が大学へ」実現可能な範囲で行き来するものである。教員が小規模病院等の現状を理解することで、地元ナースに関する学士課程教育に還元でき、小規模病院等看護職が大学教育の一端を知ることによって小規模病院等での臨地実習の基盤が整うことを目指している。また、将来に向けた本格的な人事交流システムを構築する基盤を形成したいとも考えている。④看護研究相談・支援については、研究に関して苦手意識を持つことが多かった小規模病院等看護職のニーズに対応した看護研究相談・支援を行うものである。地元医療福祉の看護実践に寄与する研究活動の基盤を形成することを目指している。⑤ICTとは、Information and Communication Technology のことである。本事業では、遠隔地にある小規模病院等における臨地実習、リカレント教育、看護研究相談・支援をより効率的に実施できるために、今日的な民間汎用サービスを用いた双方向性のテレビ会議システムを展開している。高価な専用システムを用いずとも、職場や自宅から安全・安価にアクセスできる民間汎用サービスによる ICT 活用システムを構築することを目指している。ICT は、交通時間や天候を気にせずに実習指導やリカレント教育、看護研究相談・支援を受ける/行うことができるものであり、地方における事業展開上、重要な方法である。

### 3. 今日の国及び山形県の政策課題と山形発・地元ナース養成プログラムの関係

報道によれば、「政府は、若者の地方移住や就職を促すための有識者会議を近く設置し、東京一極集中の緩和に乗り出す。会議は自治体への補助金制度や若者にアピールする情報発信などを議論し、夏までに報告書をまとめる（毎日新聞 2018 年 1 月 5 日）」という。また、山形県は若者のやる気や自信を創出し、若者が活躍できる風土づくりの推進に資する「輝けやまがた若者大賞」を創設している。このように、今日の国及び山形県は、「若者」「地方」をキーワードとした政策課題に取り組んでいる。地方の活性化において「若者」は大きな位置を占めているといえよう。

山形発・地元ナース養成プログラムは、地元住民の多様な健康問題に幅広く対応できる看護職を養成することで「地元医療福祉が向上し、地元住民の安心な生活に繋がる」ことをねらいとする一方、若者が気概を持って地元就業することで地方の活性化に寄与できる側面も有している。その意味において、今日の国及び山形県の政策課題に合致したプログラムでもある。

平成 26 年度の本事業の選定時点において、文部科学省の推進委員会からは「これからの日本の重要な課題への先駆的な取り組みとして高く評価できる」との期待を寄せられた。一方、「事業計画の展開により、地域医療に興味を持ち地元で就業する人が増えることは望ましいが、地元就職する人を増やすことを目標として焦点化することは当事業の趣旨に一致するものではない」とのコメントも頂いた。後者について改めて吟味すると、学生・卒業生の地元就業は、山形発・地元ナース養成プログラムの結果としてついてくるものである、と言い換えることができると考える。

地方の学生が都市部の大規模病院を希望する理由としては、①都会的な生活、②給与・福利厚生充実、③看護技術や看護研究の指導体制が整っている、があると考えられる。①と②の解決は難しいが、③は対応可能な事柄である。しかし、今までの小規模病院等看護職はリカレント教育を受ける機会が少なく、看護研究についても苦手意識を持つことが多いなど、小規模病院等に学生が望



む指導体制が整っているとは言い難かった。山形発・地元ナース養成プログラムでは、リカレント教育、看護研究相談・支援、人事交流により多角的に小規模病院等看護職を支援している。これらの支援で小規模病院等の指導体制が整い、そして、臨地実習を受け入れられるようになることで、学生の小規模病院等就業に寄与できると考えられる。

今後、山形発・地元ナース養成プログラムの意義を広く周知し、補助金事業終了後の事業継続・発展に繋がるように努力していきたい。

#### 4. 山形発・地元ナース養成プログラム事業推進委員会

本事業の推進において、「山形発・地元ナース養成プログラム事業推進委員会」は、文部科学省補助金事業内容を協議し実行に移す上で非常に重要な委員会である。

今年度も大学の委員会として、毎月、開催した。毎回、事業推進代表者である学長も出席し、課題解決型高度医療人材養成プログラムに大学として責任を持つことを担保している。

#### 5. 今後に向けて

山形発・地元ナース養成プログラムに対して、協力病院/施設の看護部長/総看護師長から、「素晴らしい教育環境の中で最新の看護実践教育を学んだことで、リカレント教育の重要性を再確認した」、「受講生が看護専門職としての自信を取り戻し、組織の活性化につながった」、「大学との連携により、将来的には新人看護師の人材確保につなげていきたい」、「職場として大きな収穫を得た。事業終了後も何らかの形でこのような取り組みを継続していただきたい」などの声を頂いている。

平成29年12月の第37回日本看護科学学会学術集会においては、「地元住民の砦となる小規模病院等の看護職のキャリア形成—大学との協働によるブレークスルー」と題した交流集会を企画し、本事業の進捗について報告した。フロアから「小規模病院等と大学のwin-winの関係が良く分かった」との意見を頂いた。

地方にある大学だからこそできる役割を果たすべく、今後も山形発・地元ナース養成プログラムの組織的な事業推進を図っていきたい。

文責 事業推進責任者 菅原京子（看護学科教授）

## II. 活動報告

### 1. 学士課程教育

#### 1) 新設科目 「地元論」、「ジェネラリズム看護論」、「相互理解連携論」の開講

1年生で履修する「地元論」は今年度で3回目の開講、2年生で履修する「ジェネラリズム看護論」、「相互理解連携論」は今年度2回目の開講であった。3科目はいずれも選択科目であるので、年度当初のガイダンスで科目の目的や意義について全学生に案内し履修者を募った。各科目の詳細を以下に示した。

##### (1) 地元論

開講時期：1年通年      単位数：1単位      時間数：15時間      履修学生数：59人

授業概要：“地元”の概要を理解し、学生個々人の“地元”に対する理解と愛着を深め、“地元”で働き、“地元”を創造していく重要性を教授する。

#### 内容

月日	授業項目	学習内容・学習方法	担当
7月10日(月) 4限目	“地元”を概観する	“地元”とは “地元”が注目される理由	後藤順子
7月24日(月) 5限目	“地元”で暮らすとは	「私たちが住みたいまちとは」 地区の中核病院周辺のまちづくり構想 グループ討議	後藤順子 外部講師 (川西町)
12月7日(木) 3限目	“地元”で働くこと	看護師の立場から	後藤順子 大滝 徹
12月14日(木) 3限目	“地元”で働くこと	助産師の立場から	後藤順子 奥山由枝
12月21日(木) 3限目	地元住民の生活を考 えてみよう	住民の生活の多様性	後藤 順子
1月11日(木) 3限目	“地元”で働くこと	保健師の立場から	後藤順子 結城俊祐
1月18日(木) 3限目	“地元”を創造する	地元の魅力と幸福度から、地元を創造するとは	後藤順子
1月25日(木) 3限目	“地元”の魅力	“地元”の魅力について考えを深める	後藤順子

#### 成果

学生の感想から、全体を通して、人が生活するとは何か、その生活をする場には何が必要かなどについて考察を深めていることがうかがえた。当初、学生にとって“地元”とは、これまで生まれ育ってきた場所をイメージすることが多かったが、講義終了時には、“地元”について、学生それぞれは自分の言葉で表現できていたことから、“地元”の概念を理解できたと考える。

当初、学生の卒業後の就職先のイメージとして、急性期病院、大規模病院、都市部等が挙げられていた。外部講師からレクチャーを受けることで、看護職の多様な働き方について学ぶとともに、“地元”で働くことや“地元”住民の生活について広く考えることが出来るようになった。



川西町：学生討論会の様子



“地元”で働くこと 看護師の立場から



“地元”で働くこと 助産師の立場から



“地元”で働くこと 保健師の立場から

(2) ジェネラリズム看護論

開講時期：2年通年 単位数：1単位 時間数：15時間 履修学生数：25人（他聴講学生3人）  
 授業概要：地域の保健医療水準の向上に貢献できる地元ナースとしての活動の基盤形成につながるよう  
 に、人々の多様な健康問題及び看護へのニーズの献上を概観し、地方の小規模病院・診療所、高齢者施設  
 等の場において、求められる看護について探求する。

内容

月日	授業項目	学習内容・学習方法	担当
6月19日(月) 4限目	授業ガイダンス ジェネラリズム看護論とは	ジェネラリズムとは何か ジェネラリズム看護論の概観	遠藤和子
6月29日(木) 1・2限目	地方に暮らす人々の健康問題とニーズ	「生活をみるとは」 (パネルディスカッション) ・看護学・社会学の立場 山田香 ・理学療法学・ケアマネージャーの立場 丹野克子 ・社会福祉学・MSWの立場 大江祥子	遠藤和子

7月5日(水) 4限目	地方に暮らす人々の健康問題とニーズ	パネルディスカッションを受けて検討会	遠藤和子
11月8日(水) 3限目	看護に期待されているジェネラリストとしての活躍の場とニーズ	ニーズへの対応方法と協働	遠藤和子
11月15日(水) 3・4限目	看護に期待されているジェネラリストとしての活躍の場とニーズ	「外来や地方の小規模病院や診療所で求められる看護活動の実際」 ・ジェネラリストナース 大淵愛 ・看護管理者 鈴木由美子	遠藤和子
11月22日(水) 3限目	ジェネラリズム看護の展望	地元住民が頼りにする看護師像とは	遠藤和子

## 成果

学生の感想から、職種間の視点の類似と相違があること、多面的に捉える必要があること、その中で看護が期待されるニーズの考察を深めていることがうかがえた。また、医療資源の乏しい地域の中で、地元住民の多様な健康問題に対して、教科書どおりではなく創造した看護活動を行い、様々な機関と協働連携することの重要性を理解できたと考える。

人事交流事業で大学に派遣された小規模病院の看護師が、学生の討議を中心に4回参加した。小規模病院で働く看護師から具体的な実践例や実践者の立場からの意見があったことで、学生の理解を深めることに効果があったと考える。



「生活をみるとは」ディスカッションの様子



「外来や地方の小規模病院や診療所で求められる看護活動の実際」ディスカッションの様子

### (3) 相互理解連携論

開講時期：2年後期      単位数：1単位      時間数：15時間      履修学生数：45人

授業概要：個人、集団、地域等の「連携」の基礎や実際について、とくに「相互理解」を中心に、保健医療福祉分野以外も含めて広く学習し、近年の保健医療福祉の分野で推進される「多職種連携協働（チーム医療）」に適応できるような能力、技術、考え方を教授する。

## 内容

月日	授業項目	学習内容・学習方法	担当
12月5日(火) 1・2限目	授業ガイダンス 相互理解の基本	相互理解とは何か (講義・演習) ・相手を理解する ・自分を理解する 相互理解を深めるために必要なこと	前田邦彦 井上京子 佐藤志保
12月12日 (火) 1・2限目 3・4限目	連携をすすめる上で必要なスキル1	医療コミュニケーション・ファシリテーション (講義・演習) ・対話を通じたヘルスプロモーション ・アサーティブ・コミュニケーション ・コーチング ・ファシリテーション 講義 医療コミュニケーション 演習 プレイバックシアター	井上京子 佐藤志保  孫 大輔 井上和亨
12月19日 (火) 1・2限目	連携をすすめる上で必要なスキル2 まとめ	情報の共有によるコラボレーション (講義・演習)  グループにおける自分の役割 自己評価  演習 コラボレーションゲーム	井上京子 佐藤志保

## 成果

学生のレポートには、自分の考えを伝え、相手の考えや気持ちを理解することの重要性を学ぶことができたという記載が多く、授業目的に沿った成果が得られたと考える。

プレイバックシアター等の演習に参加した先輩看護職であるフォローアップ研修受講生は、学生にとって看護職のロールモデルとなっていた。



「医療コミュニケーション・ファシリテーション」講義の様子

## 2) リカレント教育修了生の小規模病院等での実習

総合看護学実習 I

開講時期：4年前期

単位数：2単位

### (1) 成人慢性期看護学領域

施設名	学生数	内容
川西湖山病院	3人	病棟、併設する介護老人保健施設、グループホームで実習 訪問診療に同行
小国町立病院	3人	地域包括ケア病棟、一般病棟、併設する老人保健施設での実習 訪問看護に同行、「まちかど医療相談室」参加

### (2) 在宅看護学領域

施設名	学生数	内容
公立高島病院	1人	地域包括ケア病棟、急性期病棟、訪問看護部門で実習 リハビリテーションスタッフとの同行訪問、事例検討会に参加

## 成果

3施設のうち、小国町立病院と公立高島病院は、リカレント教育修了生のいる小規模病院として今年度初めて実習施設となった。

いずれの施設でも、学生は、看護師が医療施設から地域に出向き健康相談をしながらアセスメントし、その場で健康教育の実施という、地域住民の健康を保持増進する看護の役割を理解した。また、施設と在宅の連携と継続の実際の理解を深めた。さらに、規模は小規模でありながら地域のニーズに合わせ多様な機能を果たして地域住民の健康を包括的に守っている医療機関の役割や、それらの機能の連続性協働連携の実際を理解できた。

その地域出身の学生であっても、小規模病院の活動を初めて知ったという感想を述べていた学生がいたことから、小規模病院の存在を学生に周知させる機会となったと考える。

リカレント教育の実施により、施設側からも実習を引き受けたいという意向が強かった。リカレント教育修了生は人事交流事業にも参加していたこともあり、本学の教育課程や学生の理解度を理解したうえで、大学教員とともに実習内容を検討し、中心となって実習指導に当たった。リカレント教育や人事交流における成果が反映されたと考える。

今後の課題として、リカレント修了生のいる施設に積極的に実習依頼を行っていく。一方、リカレント教育修了生の小規模病院は、大学から遠く、公共交通機関の便が悪い施設が殆どである。また、一施設当たりの実習受け入れが少人数に限られる。実習施設への通学を配慮した学生の配置や ICT の活用が必要となる。

## 3) リカレント教育修了生のいない小規模病院での実習

総合看護学実習 I

開講時期：4年前期 単位数：2単位

### (1) 成人慢性期看護学領域

施設名	学生数	内容
南陽病院	2人	一般病棟、地域包括ケアによる退院支援
長井病院	2人	一般病棟、地域包括ケアによる退院支援

## (2) 在宅看護学領域

施設名	学生数	内容
本間病院	1人	地域包括ケア病棟、急性期病棟、訪問看護部門で実習
鶴岡協立病院	1人	地域包括ケア病棟、急性期病棟、訪問看護部門で実習

### 4) 今後の学士課程教育の検討

新設3科目と総合看護学実習により「すべての学生が卒業時点で地元で就業する価値を理解できる」ことを到達目標とすることを確認した。

新設3科目は、地元ナース養成のために新設した科目のため手探りでやってきた。2年間、あるいは3年間実施し、手ごたえを感じている。今後もこれら3科目が効果的に積み上げられるよう、卒業時の到達目標をふまえた魅力ある内容となるよう精錬していく。

平成30年度には、総合看護学実習Ⅰ 地元医療福祉コース（地元ナース）を開設予定である。平成30年度に4年生となる学生に対して、実習の目的、目標、場所、内容について検討し、学科教員に周知し学生にオリエンテーションを行っている。

文責 看護学科長・教授 遠藤恵子  
看護学科教授 後藤順子  
看護学科教授 遠藤和子  
看護学科准教授 井上京子

## 2. リカレント教育

### 1) リカレント教育プログラム

平成 27 年度より実施した 120 時間のリカレント教育履修証明プログラム「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」について、内容を再検討してシラバス（別紙 1）を作成し、実施した。

#### (1) 履修証明プログラム「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」の実施状況

##### ①開講目的

小規模病院等の看護職が地元医療福祉の担い手として、その役割を再認識し発展的な看護を実践する能力の向上をはかり、実習指導力につなげることを目的とする。

##### ②開講科目

科目名	単元数（ICT 開講単元数）	時間数（時間）
看護の動向と課題	2（0）	12
根拠に基づく看護	11（9）	48
地域密着連携	4（3）	30
看護研究の基礎	4（2）	30
合計	21（14）	120

\*各項目を構成する単元は別紙「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムシラバス」等参照

##### ③開講期間:平成 29 年 7 月 25 日（火）～9 月 28 日（木）<単元毎開講日>別紙 2 参照

##### ④受講者数：45 名

- ・全科目履修者数：9 名（病院：9 名）
- ・単元履修者数：36 名

単元履修者の内訳

受講単元数	1	2	3	4～6	7～9	10～12	13 以上
人数	8	8	7	8	1	3	1

\*履修証明書交付者数：11 名（今年度全科目履修修了者 9 名+2 年間で全科目履修修了者 2 名）

##### ⑤ICT の利用状況

- ・履修者 45 名中、ICT を利用して受講した単元を有する者：31 名（84.4%）
- ・履修証明書を交付された者 11 名中、ICT を利用して受講した単元を有する者：7 名（63.6%）
- ・単元履修者 36 名中、ICT 利用単元数・・・49/74 単元（66.2%）
- ・単元履修者 36 名中、ICT のみを利用した履修者：14 名（38.9%）

#### (2) 履修証明書の交付 \*履修証明書は 2 年間で取得可能

本小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムは、学校教育法第 105 条に基づく「履修証明プログラム」として実施し、120 時間の講習を受講し修了要件を満たした者には、本学から同法に基づく「履修証明書」が交付される。今年度は、修了要件を満たした全科目履修者 11 名（昨年度から継続し、2 年間で全科目履修を修了した 2 名を含む）について、看護学科教員会議で審議の上修了を認定し、「履修証明書」を交付した。



### (3) リカレント教育プログラム評価

#### ①Minutes Paper による分析

受講生の講義への参加度、内容の理解度、満足度について、受講生による Minutes Paper の記載内容をまとめた。その結果を基に、次年度の小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムを検討する。

＜小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム Minutes Paper の集計結果＞ 別紙 3

#### ②小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム終了後のアンケート調査

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの教育効果を経年的、数值的、客観的に測定・評価するために、終了時・3 カ月後にアンケート調査を実施した。



開講式



フィジコを使用した演習



I C T活用の講義



I C T活用の演習



I C T活用でのグループワーク



閉講式

## 2) 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムに関する学会発表

小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムで、シミュレーターを使用した講義・演習を行っている。その実際や課題などの報告を行った。

学会名：第10回東北シミュレーション医学医療教育研究大会

開催地：福島市

開催日：2017年12月2日（土）

演題名：「山形発・地元ナース養成プログラム」におけるリカレント教育に際してのシミュレーターを活用した教育・研修の取り組み（発表者：佐藤志保）

<抄録> 別紙4

平成27・28年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム終了後に、履修証明修了生の職場上司を対象にアンケート調査を実施した。その結果をまとめ、下記のとおり報告した。

学会名：第37回日本看護科学学会学術集会

開催地：仙台市

開催日：2017年12月17日（日）

演題名：「山形発・地元ナース養成プログラム」におけるリカレント教育効果  
—履修証明修了生の職場上司による評価—

（発表者：佐藤志保）

<抄録> 別紙5

## 3) フォローアップ研修

フォローアップ研修は、リカレント教育の一環として、小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの履修証明修了生を対象に昨年度より実施している。

### (1) フォローアップ研修の実施状況

今年度の研修対象者は、平成27年度履修証明修了生でフォローアップ研修未参加者1名と、平成28年度履修証明修了生6名の計7名であった。そのうち、フォローアップ研修への参加者は5名であった。

#### ① フォローアップ研修の目的

- ・小規模病院等で展開する看護学実習やスタッフ教育を実施できる企画力と調整力を養う。
- ・小規模病院等における看護学生や新人看護師・スタッフへの指導力を培う。
- ・発展的な看護を実践する能力の向上を図る。

#### ② 研修日程と内容

- ・開催期間：平成29年6月～12月（8日間）
- ・研修内容

##### 【指導力スキルアップ研修】

学習内容：「根拠に基づく看護」をテーマとした研修会の企画・実施・評価

学習方法：自施設で展開するスタッフ教育の展開（グループワークおよび実施）

【看護研究ステップアップ研修】

学習内容：研究計画書の作成、研究方法の実践、研究のまとめと発表

学習方法：演習を通して看護研究のプロセスを展開

【地元医療連携ステップアップ研修】

学習内容：連携をすすめる上で必要なスキル（ファシリテーション等）

学習方法：学部学生の講義や演習に参加

(2) 研修内容の概要

・研修日程

回	月日	1限	2限	3限	4限
1	6/7		看護研究	看護研究	指導力
2	6/21		看護研究	看護研究	指導力
3	7/5		看護研究	看護研究	指導力
4	7/19				指導力
5	10/4		看護研究	看護研究	看護研究
6	10/18		看護研究	看護研究	看護研究
7	11/1		看護研究	看護研究	看護研究
8	12/12	地元医療連携			

① 指導力スキルアップ研修

研修生の施設の新人を対象とした「卒後3ヶ月フォローアップ研修」を企画した。研修内容はフィジカルアセスメントで、フィジコを使用して実施し、終了後に評価を行った。



② 看護研究ステップアップ研修

昨年度の小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム「看護研究の基礎」で作成した研究計画書あるいは新たな研究計画書を基に、研究を進めた。今年度は調査を実施し、結果を発表した。



### ③地元医療連携ステップアップ研修

連携をすすめる上で必要なスキル（ファシリテーション・コーチング等）について、学部学生と共に講義や演習に参加し学習した。



### (3) 総括および今後の課題

今年度は、研修目標を踏まえ、ブラッシュアッププログラムのフォローアップとなる研修方法・内容を検討し実施した。小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムでの学びを活かし、研修生が自施設で行う研修会を企画する内容や、受講生がもっと学びたいと希望している内容を考慮し、フォローアップ研修を組み立てた。研修生が主体的に企画し、計画を進めるような研修内容にしたことにより、研修の目標が概ね達成できたと考える。

今年度の成果を活かし、研修生が主体的に取り組むことができ、職場に還元できるような内容を企画する。研修期間は長いですが、実際の大学での研修は8日間であること、勤務しながらの受講であることから、研究等、気持ちが途絶えないような働きかけが必要である。

\*研修生の意見・要望等（抜粋）\*別紙6参照（平成29年度 フォローアップ研修実施報告）

文責 看護学科准教授 井上京子  
看護実践研究センター特任講師 佐藤志保

## 平成 29 年度 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムシラバス

## ＜開講目的＞

小規模病院等の看護職が、地域の医療福祉の担い手としてその役割を再認識し、発展的な看護を実践する能力の向上を図ることを目的とする。

科 目	看護の動向と課題	科目担当者	沼澤さとみ 佐藤志保
授業形態	講義	時間数	12 時間＝90 分×8 回【6 時間（4 回）×2 日間】
学習目標	1. わが国の看護や看護教育の変遷と現状、今後の展望と課題等について学ぶ 2. 自己の看護体験のリフレクションや講義を通して、看護について考える機会とする		
授 業 計 画			
単元名	回	内 容	担当
看護の動向と課題 I	1	看護について考える ・看護経験のリフレクション	沼澤さとみ
	2	看護とは何か ・看護の原点、語源 ・看護理論家が考える看護とは	
	3	看護の専門性 ・専門職とは ・専門職としての看護	菅原京子
	4	変化している看護 ・疾病中心からヘルスプロモーションへ ・施設内看護～地域基盤看護へ ・看護の社会的責務 他	
看護の動向と課題 II	5～7	看護教育制度の変遷と現状 ・看護教育制度の変遷 ・看護基礎教育の現状と課題 ・看護教育課程の特徴 ・教育課程をめぐる最近の動向	沼澤さとみ
	8	・大学院教育、専門看護師等の認定制度 わが国の看護・看護教育の展望と課題 ・看護・看護教育の展望と課題について考える	
評価方法	試験・レポート		

科目	根拠に基づく看護	科目担当者	高橋直美 佐藤志保
授業形態	講義・演習	時間数	48時間=90分×32回【6時間(4回)×8日間】
学習目標	1. 講義や演習を通して看護実践の根拠を明確にし、既存の知識との統合を図る 2. 根拠に基づく知識と技術を確認する機会とする		
授 業 計 画			
単元名	回	内 容	担当
看護過程	1	・根拠に基づく看護とは	高橋直美
	2	・看護過程とは	高橋直美
フィジカルアセスメント	3	・フィジカルアセスメントとは ・フィジカルアセスメントの基本技術	沼澤さとみ
	4	・運動器系のフィジカルアセスメント	高橋直美
	5・6	・呼吸器系のフィジカルアセスメント	半田直子
	7	・消化器系のフィジカルアセスメント	半田直子
	8	・事例を用いたフィジカルアセスメントの実践	高橋直美
	9・10	・循環器系のフィジカルアセスメント	高橋直美
看護過程	11・12	・事例を用いた看護過程の展開	高橋直美
高齢者の看護	13・14	・高齢者の特徴 ・高齢患者のケア	(外部講師) 後藤 慶
認知症の看護	15・16	・認知症高齢者の特徴 ・認知症高齢者のケア	(外部講師) 吉澤理恵
災害看護	17・18	・災害看護とは ・トリアージの基礎知識	高橋直美
緩和ケアの看護	19・20	・緩和ケアとは ・緩和ケアの実際	(外部講師) 齋藤春美
リハビリテーションの看護	21・22	・看護におけるリハビリテーションとは ・リハビリテーションの実際	赤塚清矢 中野渡達哉
摂食・嚥下の看護	23・24	・栄養状態、摂食のアセスメント ・患者の状態別援助の実際	(外部講師) 梁瀬文子
褥瘡ケアの看護	25・26	・褥瘡のアセスメント ・褥瘡ケアの実際	(外部講師) 片岡ひとみ
糖尿病の看護	27・28	・糖尿病患者の特徴 ・糖尿病患者のケア	佐藤志保
急変時の看護	29～32	・急変時の看護とは ・急変時のアセスメントと看護の実際 ・事例から対応策を考える	(外部講師) 峯田雅寛
評価方法	試験・レポート		

科目	地域密着連携	科目担当者	井上京子 佐藤志保
授業形態	講義・演習	時間数	30時間＝90分×20回【6時間（4回）×5日間】
学習目標	1. 地域医療連携の必要性やあり方を検討する 2. 地域包括ケアの現状と課題を抽出し、改善策を検討する機会とする 3. 連携をすすめるうえで必要な基本的スキルを習得する 4. 保健・医療等専門職および住民と協働して包括ケアを実践する方法を身につける		
授 業 計 画			
単元名	回	内 容	担当
地域医療連携	1・2	地域医療連携について <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療連携の必要性</li> <li>・医療従事者間の連携</li> <li>・住民力の活かし方</li> </ul>	菅原京子
	3・4	地域包括ケア <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケアとは</li> <li>・地域包括ケアシステムの構築</li> <li>・地域ケア会議の推進</li> <li>・地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）の実際</li> </ul>	
連携のためのスキル	5～12	連携をすすめる上で必要なスキル <ul style="list-style-type: none"> <li>・連携におけるマネジメント力・コミュニケーション力</li> <li>・コーチングとは</li> <li>・ファシリテーションとは</li> <li>・ファシリテーションのスキル</li> <li>・ファシリテーターの役割</li> </ul>	(外部講師) 醍醐孝典 (外部講師) 塩野貴美
地域医療の実際	13～16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の特性に応じた地域医療連携および地域包括ケアの現状と課題 (プレゼンテーション)</li> <li>・地域の特性に応じた地域医療連携および地域包括ケアの現状と課題 (課題の改善策の検討)</li> </ul>	井上京子 佐藤志保
地域連携事例検討	17～20	事例検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・事例（紙上患者）に対する地域包括ケアの検討</li> </ul>	井上京子 佐藤志保
評価方法	試験・レポート		

科目	看護研究の基礎	科目担当者	今野浩之 佐藤志保
授業形態	講義	時間数	30時間=90分×20回【6時間(4回)×5日間】
学習目標	1. 看護研究の意義を理解し、実践と研究を関連づけて捉える機会とする 2. 看護研究のプロセスを学び、研究計画書を作成する 3. 看護研究の講義や演習をとおして、理論的な考え方を身につける		
授 業 計 画			
単元名	回	内 容	担当
看護研究の進め方	1	身近に感じる看護研究 ・研究とは何か、研究をする意義、実践における看護研究の位置づけ、研究デザイン	今野浩之
	2	実践の振り返り ・実践の中で感じる疑問や改善点を考える(実践報告、事例報告を含める) ・これまでの看護研究について	佐藤志保
	3・4	文献検索 一気になる事柄について文献を調べる— ・文献検索の目的や意義 ・医中誌他文献検索の実際 ・各個人で関心のある文献を2～3編程度選定する	
質的・記述的研究	5～8	研究デザイン 一質的・記述研究— ・文献を読みながら質的・記述研究の基礎を学ぶ ・各々が選定した文献を読み込む(クリティーク含む)	今野浩之
量的研究	9～12	研究デザイン 一量的研究— ・文献を読みながら量的研究の基礎を学ぶ ・調査用紙の作成について学ぶ ・各々が選定した文献を読み込む(クリティーク含む)	後藤順子 今野浩之
研究計画の作成と発表のルール	13	倫理的配慮の基本 ・看護研究における倫理の必要性和原則	遠藤恵子
	14～18	研究計画書の作成 ・研究計画書に問われるもの、書き方等 ・研究成に向けて個々に作業 ・発表(1人15分程度)、まとめ	後藤順子 井上京子 今野浩之
	19・20	研究発表のルール ・研究発表の方法(学会・学術論文の書き方)、実践へのいかし方等まとめ 実践にいかす看護研究のまとめ ・看護実践研究センターの利用について	
評価方法	試験・レポート		

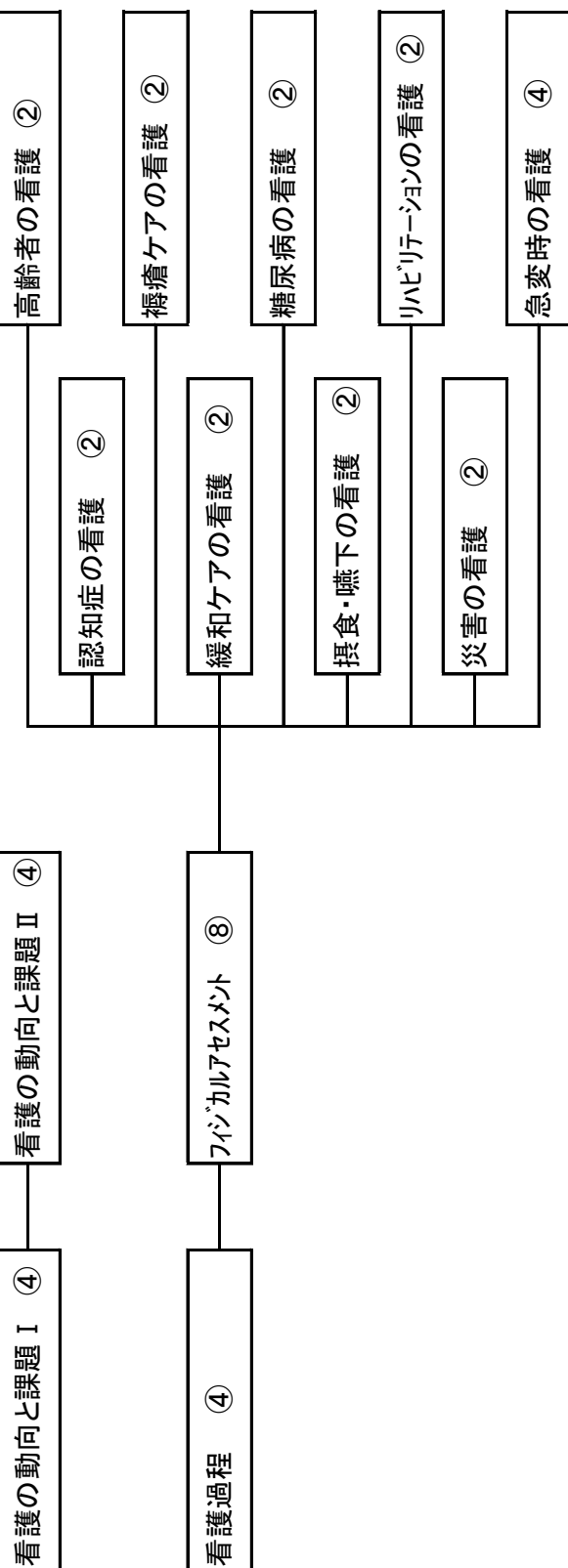


# 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム カリキュラムツリー

単元 ⇒

## 【科目名】

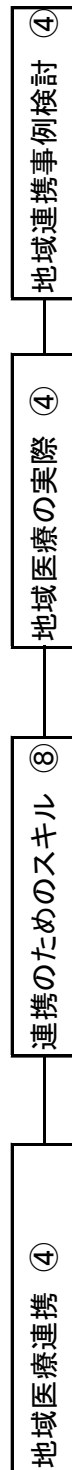
### 【看護の動向と課題】



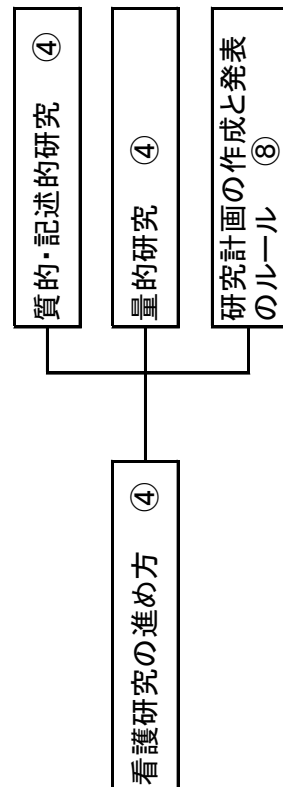
### 【根拠に基づく看護】



### 【地域密着連携】



### 【看護研究の基礎】



\* ○内の数字は、講習回数である。  
1回の講習は90分

## 平成29年度 ブラッシュアッププログラム 単元毎開講日

科目名	単元名	開講日	時間	ICT
[看護の動向と課題]	看護の動向と課題Ⅰ	7月25日(火)	9:00~12:10	
	看護の動向と課題Ⅰ		13:00~16:10	
	看護の動向と課題Ⅱ	7月27日(木)	9:00~12:10	
	看護の動向と課題Ⅱ		13:00~16:10	
[根拠に基づく看護]	看護過程*	8月1日(火)	9:00~12:10	
	フィジカルアセスメント		13:00~14:30	
	フィジカルアセスメント(運動器)		14:40~16:10	
	フィジカルアセスメント(呼吸器)	8月3日(木)	9:00~12:10	
	フィジカルアセスメント(消化器)		13:00~14:30	
	フィジカルアセスメント(事例)		14:40~16:10	
	フィジカルアセスメント(循環器)	8月8日(火)	9:00~12:10	
	看護過程*		13:00~16:10	
	高齢者の看護	8月10日(木)	9:00~12:10	可
	認知症の看護		13:00~16:10	可
	災害看護	8月15日(火)	9:00~12:10	可
	緩和ケアの看護		13:00~16:10	可
	リハビリテーションの看護	8月17日(木)	9:00~12:10	可
	摂食・嚥下の看護		13:00~16:10	可
	褥瘡ケアの看護	8月22日(火)	9:00~12:10	可
	糖尿病の看護		13:00~16:10	可
急変時の看護	8月24日(木)	9:00~12:10	可	
急変時の看護		13:00~16:10		
[地域密着連携]	地域医療連携	8月29日(火)	9:00~12:10	可
	地域医療連携		13:00~16:10	
	連携のためのスキル	8月31日(木)	9:00~12:10	
	連携のためのスキル		13:00~16:10	
	連携のためのスキル	9月5日(火)	9:00~12:10	
	連携のためのスキル		13:00~16:10	
	地域医療の実際	9月7日(木)	9:00~12:10	可
	地域医療の実際		13:00~16:10	
	地域連携事例検討	9月12日(火)	9:00~12:10	可
地域連携事例検討	13:00~16:10			
[看護研究の基礎]	看護研究の進め方	9月15日(金)	9:00~10:30	
	看護研究の進め方		10:40~12:10	
	看護研究の進め方		13:00~16:10	
	質的・記述的研究	9月19日(火)	9:00~12:10	可
	質的・記述的研究		13:00~16:10	
	量的研究	9月21日(木)	9:00~12:10	可
	量的研究		13:00~16:10	
	研究計画の作成と発表のルール	9月26日(火)	9:00~12:10	
	研究計画の作成と発表のルール		13:00~16:10	
	研究計画の作成と発表のルール	9月28日(木)	9:00~12:10	
	研究計画の作成と発表のルール		13:00~16:10	

\* 看護過程を選択する方は、8/1(火)午前と8/8(火)午後の両方を受講して下さい。

H29年度ブラッシュアッププログラムMinute Paperの集計結果

単位 上段:人  
下段:%

【講義への参加度】 4:参加できた 3:どちらかと言えばできた 2:どちらかと言えばできない 1:参加できなかった

	大学で受講				ICTで受講				計			
	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
看護の動向と傾向	18	4	0	0	0	0	0	0	18	4	0	0
	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	81.8	18.2	0.0	0.0
根拠に基づく看護	165	28	0	0	59	12	0	0	224	40	0	0
	85.5	14.5	0.0	0.0	83.1	16.9	0.0	0.0	84.8	15.2	0.0	0.0
地域密着連携	41	3	0	0	19	1	0	0	60	4	0	0
	93.2	6.8	0.0	0.0	95.0	0.5	0.0	0.0	93.8	6.2	0.0	0.0
看護研究の基礎	64	9	0	0	8	5	1	0	72	14	1	0
	87.7	12.3	0.0	0.0	57.1	35.7	7.2	0.0	82.8	16.1	1.1	0.0
計	288	44	0	0	86	18	1	0	374	62	1	0
	86.7	13.3	0.0	0.0	81.9	17.1	1.0	0.0	85.6	14.2	0.2	0.0

【内容の理解度】 4:理解できた 3:どちらかと言えばできた 2:どちらかと言えばできない 1:理解できなかった

	大学で受講				ICTで受講				計			
	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
看護の動向と傾向	13	9	0	0	0	0	0	0	13	9	0	0
	59.1	40.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	59.1	40.9	0.0	0.0
根拠に基づく看護	146	47	0	0	55	16	0	0	201	63	0	0
	75.6	24.4	0.0	0.0	77.5	22.5	0.0	0.0	76.3	23.7	0.0	0.0
地域密着連携	39	5	0	0	18	2	0	0	57	7	0	0
	886.0	11.4	0.0	0.0	90.0	10.0	0.0	0.0	89.1	10.9	0.0	0.0
看護研究の基礎	51	22	0	0	5	7	2	0	56	29	2	0
	69.9	30.1	0.0	0.0	35.7	50.0	14.3	0.0	64.4	33.3	2.3	0.0
計	249	83	0	0	78	25	2	0	327	108	2	0
	75.0	25.0	0.0	0.0	74.3	23.8	1.9	0.0	74.8	24.7	0.5	0.0

【講義の満足度】 4:満足できた 3:どちらかと言えばできた 2:どちらかと言えばできない 1:満足できなかった

	大学で受講				ICTで受講				計			
	4	3	2	1	4	3	2	1	4	3	2	1
看護の動向と傾向	18	4	0	0	0	0	0	0	18	4	0	0
	81.8	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	81.8	18.2	0.0	0.0
根拠に基づく看護	167	26	0	0	57	14	0	0	224	40	0	0
	86.5	3.5	0.0	0.0	80.3	19.7	0.0	0.0	84.8	15.2	0.0	0.0
地域密着連携	43	1	0	0	18	2	0	0	61	3	0	0
	97.7	2.3	0.0	0.0	90.0	10.0	0.0	0.0	95.3	4.7	0.0	0.0
看護研究の基礎	58	15	0	0	6	7	1	0	64	22	1	0
	79.5	20.5	0.0	0.0	42.9	50.0	7.1	0.0	73.6	25.3	1.1	0.0
計	286	46	0	0	81	23	1	0	367	69	1	0
	86.1	13.9	0.0	0.0	77.1	21.9	1.0	0.0	84.0	15.8	0.2	0.0

\* 各科目の受講者数は単元ごとの受講者の合計である。

「山形発・地元ナース養成プログラム」におけるリカレント教育に際してのシミュレーターを活用した教育・研修の取り組み

佐藤志保 1    高橋直美 2    峯田雅寛 3    半田直子 2    沼澤さとみ 2  
井上京子 2    今野浩之 2    菅原京子 1,2    前田邦彦 4

1：山形県立保健医療大学看護実践研究センター

2：山形県立保健医療大学保健医療学部看護学科

3：山形県立中央病院

4：山形県立保健医療大学

本学では、平成 26 年度より、文部科学省「課題解決型高度医療人材養成プログラム」の一つとして採択された、「山形発・地元ナース養成プログラム」事業に取り組んでいる。本事業は、地域の強み・弱みを包括的に捉え、多職種と連携し、住民力を活かした看護を实践する、これまでの臨床看護の範疇にとどまらないジェネラリズムな看護職（「地元ナース」）の育成を主眼としており、その一環として、山形県内の概ね 200 床以下の小規模病院や高齢者施設等（以下、小規模病院等）に勤務する看護職に対し、「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」（以下、プログラム）と称したリカレント教育を行っている。

プログラムは、「看護の動向と課題」「根拠に基づく看護」「地域密着連携」「看護研究の基礎」の 4 科目からなり、「根拠に基づく看護」の「フィジカルアセスメント」「急変時の看護」においてシミュレーターを活用した研修を行っている。「呼吸器（180 分）」、「消化器（90 分）」、「循環器（180 分）」の単元において、シミュレーター（フィジコ）を使用した講義・演習を行っており、また、「急変時の看護（360 分）」の単元では、レサシアン、AED トレーナー等も用い、急変時の対応についての臨場感のある学習を提供している。

これまで（3 年間）の受講者の延べ人数は「フィジカルアセスメント」116 名、「急変時の看護」55 名であった。受講者は 30 代後半から 40 代が多く、最終学歴が看護学校卒である者がほとんどを占め、シミュレーターを用いた系統的教育の経験にも乏しい。そのため、既存の知識は豊富なものの経験に基づくものが多く、根拠が不明瞭な看護実践も時折見られた。シミュレーターを活用したリカレント教育を展開することにより、このような経験的知識と根拠に基づく知見が統合され、看護実践力の一層の向上や充実が図られることが期待される。

## 「山形発・地元ナース養成プログラム」におけるリカレント教育効果—履修証明修了生の職場上司による評価—

佐藤志保 井上京子 高橋直美 今野浩之 樋谷由美子  
菅原京子 遠藤恵子 後藤順子 沼澤さとみ 遠藤和子  
安保寛明 渡邊礼子 齋藤愛依 前田邦彦

【目的】本学では、平成26年度文部科学省補助金事業の課題解決型高度医療人材養成プログラムに採択された「山形発・地元ナース養成プログラム」の事業の一環としてリカレント教育に取り組んでいる。リカレント教育の実施にあたり、ニーズ調査を基に「小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム」（以下プログラム）を開発した。本研究は、平成27年度・28年度の履修証明修了生（以下、修了生）の上司による他者評価を基に、プログラムの教育効果を明らかにすることを目的とした。【方法】本研究の対象は、平成27年度・28年度の修了生の上司12名で、プログラム終了後（3か月後）に郵送法を用いて無記名式アンケート調査を実施した。質問項目ごとに単純集計を行い、自由記載については内容の分析を行った。【倫理的配慮】研究者所属施設の倫理審査委員会の承認を得た。対象となる上司にアンケートを送付する前に、修了生から上司へのアンケート調査の実施についての承諾を得た。上司に対しては、研究の目的、自由意志、匿名性等を文書で説明した。【結果】修了生の上司12名中、回答が得られた9名（回収率75.0%）を分析対象とした。回答者と修了生の関係は、所属施設の看護部長・副部長が3名、所属部署の師長が4名、その他（施設長・主任）が2名であった。プログラム受講後の修了生の「プログラムで学んだことを仕事に活かす場面の有無」については、あるが5名、まあまああるが4名という回答であった。また、「職場のメンバーにプログラムで学んだことを伝える機会の有無」については、あるが2名、まあまああるが5名、あまりないは2名であった。「職場での仕事に対する取り組みが以前に比べて変わったと感じるか」については、変わったが3名、まあまあ変わったが4名、あまり変わらないが2名であった。「修了生の受講後の変化」について、変わった・まあまあ変わったと回答した7名の自由記載によると、「若手スタッフへの関わりについて考えてくれている」、「視野が広がったようである」、「受講し知識の再確認ができたことで、スタッフへの指導に幅が出たようである」、「受講し、専門職業人としての自信が持てるようになった」、「自分の学びをスタッフへ伝えようと努力している」、「患者への対応が一層丁寧になった」等が挙げられた。【考察】本プログラムは、修了生自身が看護実践に自信を持つことができることも目指している。修了生が受講したことにより自信をもつことにつながり、実際に職場でも新人やスタッフに対し、学びを伝えようとする姿勢がみられるという上司の評価から、効果が得られていると推察される。しかし、本調査は終了3か月後の評価であり、プログラムで学んだことを活かす場面や伝達する機会があっても、具体的にどの程度まで実践されているか等、今後も継続して他者評価を行い、効果を検証していく必要があると考える。

## 平成 29 年度 フォローアップ研修実施報告

研修生:平成 28 年度履修証明修了生のうち 5 名

## 1. 指導力スキルアップ研修 (6 月 7 日～7 月 19 日)

概要:「根拠に基づく看護」をテーマとした研修会の企画と実施・評価

研修生の施設の新人を対象とした「卒後 3 ヶ月フォローアップ研修」を、フィジカルアセスメントについてフィジコを使用した研修を行った。

## ○研修生の感想や意見など

- ・企画から実施まで時間がなく、メンバー間の打ち合わせも十分出来ないまま、それぞれの分担の中で内容を準備し大変だった。
- ・タイムスケジュールも慎重に考えたのだが、時間は足りなかったり、事例検討での役割説明が不足であったり、トラブルはあったが、メンバーで協力でき、進めることが出来た。
- ・フィジカルアセスメントを伝える自分たちも、どのように言ったら伝わるのか、実践を考えて+αで講義が出来るよう、指導する力がもっと必要だと痛感した。
- ・グループワークの際、なかなか進まなかったが、待つことやファシリテーションもうまく出来ていたと、看護部長より講評があり安心した。
- ・短時間ではあったが、新人それぞれが 3 ヶ月目の振り返り、意見をまとめられたことは、成長の証なのかな、と嬉しく頼もしく感じた。
- ・新人のみんなのたくましい成長が見れて、とても満足だった。

## 2. 看護研究ステップアップ研修 (6 月 7 日～11 月 1 日)

概要:研究計画書を作成し、計画に基づき、研究を実施しまとめた。最終日には、各自それぞれがまとめたものを発表し、意見交換を行った。

## ○研修生の感想や意見など

- ・ブラッシュアッププログラムで作成した計画書に基づいて、実際に進めることが出来た。苦手意識が少し薄らいだように思う。
- ・自分で決めたテーマだけに興味がわいてきて、アドバイスをもらうことで、少しずつ研究をする自信も持てるようになった。
- ・やり終えた達成感はもちろん、協力していただいた方々のありがたさ、予想外の結果が出る面白さを学べました。
- ・もっと研究を身近に考えることで、たくさん研究テーマがあると思った。またやってみたいと思えるようになった。

・完成までには至らなかったが、一人でここまで研究を進められ、研究についての知識も深まり、今後自分の職場での実践、指導にもつなげられる自信にもなった。

### 3. 地元医療連携ステップアップ研修（12月12日）

概要:相互理解連携論の「連携をすすめる上で必要なスキル1」の講義・演習に参加し、コミュニケーション・ファシリテーションについて学んだ。

#### ○研修生の感想や意見など

- ・あらためて、コーチングしようとするのが難しく思ったが、実際何気なくやっているのだと気づいた。
- ・患者や対象の思いを引き出す話の聞き方や、話の仕方を再度学習できた。
- ・理屈ではわかっているが、現場では自分自身の行動に取り入れるためには、自分自身が変わっていく必要があると思った。
- ・今の学生さんとも直接話をしてみて、とてもしっかり話が出来たり、積極的に演習に参加できたりする姿を見て、自分の学生時代と比べ、アクティブで感心した。

### 3. 人事交流

#### 1) 人事交流の実施

平成 29 年度は、8 つの協力病院中 6 病院と人事交流を実施した。

実施に際して、事前に人事交流に関する要綱を作成し、人事交流先との協定を取り交わした。

##### (1) 人事交流事業の目的

小規模病院等の看護師と本学看護学科の教員の人事交流を通して、お互いの業務の相互理解と教育力の向上を図る。

##### (2) 交流実績（日程・派遣先など）

【大学 ⇒ 病院】 1 名・小国町立病院へ 9 月 7 日～13 日（土日を除く 5 日間）

<研修内容>

日程		項目	内容
1 日目	午前	オリエンテーション	施設案内、助産業務について
	午後	街かど医療相談室	健康チェック、相談支援
2 日目	午前	産婦人科外来	婦人科健診、外来対応
	午後	1 歳 6 ヶ月健診	健診、相談業務
3 日目	午前	病棟	地域包括ケア病棟、退院支援
	午後	訪問看護ステーション	訪問看護
4 日目	午前	なかよし広場	子育て支援
	午後	小児科外来、内科外来	外来の役割と機能
5 日目	午前	内科外来	外来の役割と機能
	午後	介護老人保健施設	介護老人保健施設の役割と機能



まちかど医療相談室参加



仲よし広場（小国保育園）

【病院 ⇒ 大学】6 病院から 6 名（各病院 1 名）

日程	派遣先病院
6 月 28 日～6 月 30 日	尾花沢病院
10 月 3 日～10 月 5 日	最上町立最上病院
10 月 10 日～10 月 12 日	川西湖山病院、小国町立病院、公立高島病院
10 月 24 日～10 月 26 日	尾花沢病院、遊佐病院
10 月 30 日～11 月 1 日	なし
11 月 9 日～11 月 13 日	尾花沢病院、遊佐病院、小国町立病院、公立高島病院
11 月 15 日～11 月 17 日	遊佐病院、川西湖山病院



<研修内容>

【1回目】平成29年6月28日(水)～6月30日(金)

日程	1限	2限	3限	4限	5限
1日目	人事交流オリエンテーション		公衆衛生看護方法論Ⅱ		
2日目	ジェネラリズム看護論		保健医療論	文献検索	
3日目	情報科学	小児看護方法論	研究方法論Ⅱ		振り返り

【2回目】平成29年10月3日(火)～10月5日(木)

日程	1限	2限	3限	4限	5限
1日目	人事交流オリエンテーション		成人慢性期看護学実習		
2日目	成人慢性期看護学実習				
3日目	成人慢性期看護学実習				振り返り

【3回目】平成29年10月10日(火)～10月12日(木)

日程	1限	2限	3限	4限	5限
1日目	人事交流オリエンテーション		成人慢性期看護学実習		
2日目	成人慢性期看護学実習				
3日目		看護人間関係論	臨床栄養学	振り返り	

【4回目】平成29年10月24日(火)～10月26日(木)

日程	1限	2限	3限	4限	5限
1日目	人事交流オリエンテーション		成人慢性期看護学実習		
2日目	成人慢性期看護学実習				
3日目	成人慢性期看護学実習				振り返り

【5回目】平成29年10月30日(月)～11月1日(水)

日程	1限	2限	3限	4限	5限
1日目	人事交流オリエンテーション		成人慢性期看護学実習		
2日目	成人慢性期看護学実習				
3日目	成人慢性期看護学実習				振り返り

【6回目】平成29年11月9日(木)～11月13日(月)

日程	1限	2限	3限	4限	5限
1日目		グループワーク	終末期看護論	文献検索	
2日目		グループワーク	在宅看護概論	看護教育学	
3日目		看護倫理	心身障がい論	振り返り	

【7回目】平成29年11月15日(水)～17日(金)

日程	1限	2限	3限	4限	5限
1日目		グループワーク	ジェネラリズム看護論		
2日目		終末期看護論	終末期看護論	終末期看護論	
3日目		助産管理	在宅看護概論	振り返り	



学生実習参加



振り返り



グループワークの様子



講義参加【ジェネラリズム看護論】



【看護人間関係論】



【ジェネラリズム看護論】

(3) 総括および今後の課題

今年度の【大学⇒病院】については、前年度と同様に5日間の日程で1名の教員が行った。教員の研修テーマに合った施設で興味関心があった研修を実施できた。また、地方の小規模病院での研修は、地域の中で求められている病院のあり方や、そこに勤務している看護師が求められているものを知る機会となり、自身のそれまでの看護の振り返りへと繋がり貴重な経験となったようであった。

今年度の【病院⇒大学】については、昨年度の人事交流評価会議での意見を踏まえ、6月～11月の期間に7コース(各3日間)を設定し、病院側が複数のコースを選択して実施できるようにして人事交流事業を行った。参加施設6病院で、各施設から1名その結果、概ね各コースには複数名の研修者がいた。

昨年度の課題として、更なる教育力と実践力の向上を目指すため、研修期間をさらに延ばすことが挙げられ、分散した形での複数回の研修期間などが検討されたが、この課題については今年度の取り組みで一定程度解決されたと考える。

今年度は複数回の研修者が人事交流に参加されたことで、同じような規模の病院ならではの課題等について情報交換ができたことは、価値のある副産物であった。

人事交流事業の目的の1つである「大学および病院業務の概要の相互理解」については、概ね達成できた。もうひとつの目的の「教育力の向上」については、まだ十分と言いがたいので、今後は「教育力の向上」に視点を置いた内容を検討していきたい。

## 2) 人事交流事業評価会議

実施した人事交流について、交流先の管理職（看護部長等）からの評価を頂き、今後の検討材料とすることを目的に人事交流評価会議を実施した。

(1) 開催日時：平成 29 年 12 月 6 日（水）11 時～12 時 30 分 本学 401 会議室

(2) 出席者：小国町立小国病院 佐藤看護部長、最上町立最上病院 有路総看護師長、  
川西湖山病院 金子看護師長、公立高島病院 竹田看護部長、尾花沢病院 田中看護部長、  
順仁堂遊佐病院 信夫看護部長、町立真室川病院 井上総看護師長、県健康福祉課職員  
学内：前田学長、遠藤恵子教授、菅原教授、看護実践研究センター佐藤・富樫・設楽

(3) 会議内容

### ①人事交流事業の実施結果についての報告

・大学の人事交流担当者からスケジュール、研修内容についての報告を資料に基づき行った。

### ②意見交換

・人事交流についての意見では、「職員にとって良い学びの機会となっている」、「参加して帰ってきた職員のモチベーションが上がったのがわかる」、「すごい効果を感じている。自立度の高い職員が育ってきている」などの意見が出された。

・日程や実施方法等についての意見では、「本年度は日程が選べるので良かった。本年度のやり方でよい」、「事前に日程を示してもらえば調整が可能」、「実習だけで 3 日という日程もあったが、座学＋実習という方が良い」、「学生や先生とディスカッションする機会があればもっと良かった。などの意見が出された。

・本プログラムの今後については、「このプログラムに参加した職員のモチベーションが上がり、自立度の高い職員が育ってきているので、是非継続してもらいたい」、「小規模病院の看護師にあった研修はなかなかないので、小規模病院を対象とした本事業は今年度が 4 年目で、やっと軌道に乗ったと感じている。これからが勝負なので是非続けていってもらいたい」、「地理的な課題もあり、ICT で受講できるなど、本院のような環境の病院にとっては大変貴重な研修会である」などの意見が出された。



人事交流評価会議の様子

文責 看護実践研究センター特任講師 佐藤志保

## 4. 看護研究相談・支援

### 1) 報告と実施 (2018.2月末現在)

(1) 看護研究・支援の個別指導について

- ①相談件数 29 件、延べ相談回数 90 回 (同一病院等での複数件数あり)
- ②相談・支援の方法は、面談 (看護実践研究センター・研究室または所属先)、FAX、電話及びメール
- ③相談者の所属施設

施設	診療所	病院				その他高齢者施設等
		20～49 床	50～99 床	100～149 床	150～199 床	
施設数	0 ヶ所	0 ヶ所	3 ヶ所	2 ヶ所	2 ヶ所	7 ヶ所

④主な相談内容

テーマの決定	9 件
研究計画書の作成	11 件
データ収集・分析	14 件
考察・まとめ	15 件
発表	25 件

⑤発表 (予定も含む。)

- ・学会発表 . . . . . 2 件
- ・院内発表 . . . . . 12 件
- ・老健地区発表 . . . . . 13 件

(2) 看護研究の講義等について

- ・病院からの依頼 . . . . . 3 回 (150 床～199 床 ; 3 回)

\* 看護研究に係る講義等 (同一病院で複数回あり。)

### 2) 看護研究に係る研修会の開催

J ナースカフェと同日開催で、「量的研究の分析について学ぼう！～実際にみんなでエクセルを使ってみよう～」を行った。参加者数は 13 名で、本学情報処理室において各自パソコンを使用し学んだ。



### 3) 小規模病院等看護職との共同研究

現在、小規模病院等看護職との共同研究を1件行っており、日本看護科学学会で途中経過を報告した。フォローアップ研修で、実際のデータを用いて分析プロセス等について解説した。

### 4) 今後の課題

#### (1) フォローアップ研修「看護研究ステップアップ研修」への支援

仕事の都合で継続して参加できない研修生に対し、メール、ファックス等での支援、本人の意志に応じ補習的な支援の検討が必要である。



#### (2) 相談・支援体制の整備

研修会の開催依頼が新規の施設からは少ない。支援について認知されていない可能性があるため、広報の方策を検討する。

### 5) 看護研究相談支援に関する調査の学会発表

(1) 山形県内の一般診療所に勤務する看護職に対し、研修内容や研修実施環境などのニーズに応じたりカレント教育を提供するため、学習ニーズについてアンケート調査を実施し、その分析とまとめを行い、下記学会にて報告した。

学会名：第20回北日本看護学会学術集会

開催地：山形市

開催日：平成29年9月9日（土）

演題名：山形県内の診療所に勤務する看護職の学習ニーズ

<抄録>別紙7

(発表者：佐藤志保)



文責 看護学科教授 後藤順子

看護実践研究センター特任講師 佐藤志保

## 山形県内の診療所に勤務する看護職の学習ニーズ

○佐藤志保 後藤順子 井上京子 菅原京子 (山形県立保健医療大学)

【目的】本学は課題解決型高度医療人材養成プログラム「山形発・地元ナース養成プログラム」のリカレント教育の一環として、小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム（診療所、施設、訪問看護も対象）を実施している。開始後2年を経過したが、診療所に勤務する看護職の受講申し込みが非常に少ない現状にある。そこで、地域の一般診療所に勤務する看護職に対し、研修内容や研修実施環境などのニーズに応じたリカレント教育を提供するため、診療所に勤務する看護職の学習ニーズを明らかにすることを目的とした。

【研究方法】山形県内の診療所の管理者に対し、本調査を依頼した。依頼内容は診療所に勤務する看護師のうち2名を選び質問紙を配布してもらい、郵送法を用いた無記名自記式質問紙調査を実施した。質問項目ごとに単純集計を行い、自由記載については内容の分析を行った。研究者は、所属施設の倫理審査委員会の承認を得た。管理者と対象となる看護師に対して、倫理的配慮について文書で説明した。

【結果】県内診療所702ヶ所1404名を対象として、調査票を配布し243名より回収した(回収率17.4%)。女性は240名(98.8%)、男性3名(1.2%)、平均年齢46.5±9.4才(24~71歳)、看護職としての就業年数は22.8±9.8年(3~54年)、現在の所属施設での勤続年数は、平均16.4±10.1年(3か月~47年)、保有免許は、准看護師129名、看護師155名、助産師8名、保健師9名で、そのうち准看護師の資格のみは87名であった。診療所の形態は、無床217名(89.3%)で、標榜科目は内科122名(50.2%)、整形外科27名(11.1%)の順に多く、勤務する看護師の人数は3.9±2.1名(1~24名)であった。院内研修会の開催は、有123名(50.6%)、無118名(48.6%)、院外研修会の開

催は、有111名(45.7%)、無127名(52.3%)、院内外両方の研修会の開催無しは71名(29.2%)であった。研修会への参加が困難な理由は、「休みがない」52名(21.4%)、「職場の理解がない」7名(2.9%)、「育児」18名(7.4%)、「介護」1名(0.4%)であった。研修会の希望時間は、勤務時間中35名(14.4%)、勤務後50名(20.6%)、休み7名(2.9%)であった。医療系雑誌の購入は、有88名(36.2%)、無147名(60.5%)、自己学習の有無は、有65名(26.7%)、無163名(67.1%)であった。仕事と生活の両立は、両立している201名(82.7%)、いない37名(15.2%)であった。本学開催の小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムで受講希望の多い単元は、「急変時の看護」111名(45.7%)、「認知症看護」88名(36.2%)、「高齢者の看護」87名(35.8%)、「地域医療連携に関するもの」75名(30.7%)の順であった。

【考察】本調査に回答した山形県内の診療所に勤務する看護師はほとんどが女性で、看護師としての就業年数や現在所属している診療所での勤務年数が長く、臨床経験が豊富であった。仕事と生活の両立が出来ていると答えた人は約8割で、家庭と仕事の両立のため、診療所という日勤帯の仕事についていることが推測される。また、医療系雑誌の購入や自己学習を実施している人は約3割で、研修や自己学習に時間を割きにくい状況があると考えられる。受講希望の研修内容は、「急変時」、「認知症」、「高齢者」の看護や「地域医療連携に関するもの」が上位を占めており、高齢者が多く地域に根ざした医療を提供する診療所の特徴が表れている。診療所に勤務する看護師は、学習時間の確保が難しいため、関心の高い科目を優先し受講しやすい時間帯での研修会の開催が必要であると考えられる。

## 5. ICT 活用

### 1) ICT 活用の実施

#### a : 学士課程教育における ICT 活用

総合看護学実習 I（在宅看護学領域）において看護学科 4 年生 2 名を対象とし、山形県内の小規模病院等の実習施設 2 施設にて ICT を活用し学生指導を実施した。ICT の活用にあたり、事前に実習指導者の許可を得た。使用頻度は 9 日間の実習中に各施設それぞれ 4 回使用し、1 回あたりの時間は 20～30 分であった。使用目的は、学生の実習進捗状況やスケジュールの変更等の共有、実習における学びの共有、学生の体調面での確認等であった。

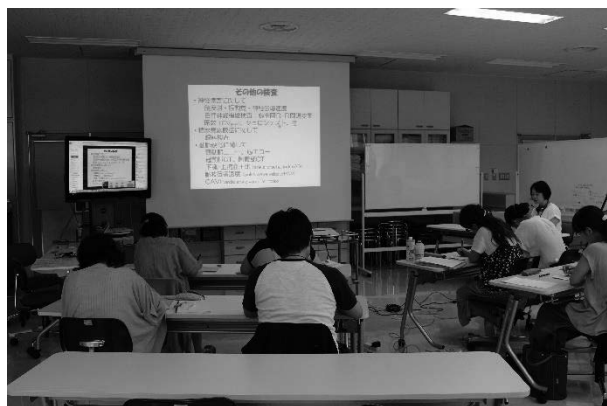
遠方で実習する学生と画面をとおして顔を見ながら確認し、双方でコミュニケーションできることは教員、学生にとって円滑な実習を実施するために有効であった。電波状況によっては、繋がりにくい場面もあり、ICT を安定して使用できるネットワーク環境の確保が課題であった。



#### b : ブラッシュアッププログラムにおける ICT 活用

今年度の小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムにおける ICT 利用は、延べ 26 施設 50 名の利用であった。小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム全 21 単元の内、ICT で受講可能な単元は 14 単元となり、すべての単元で ICT での受講の希望があった。今年度 ICT を利用した受講者は延 100 名であった。

ICT 使用にあたり、接続トラブルを最小限にするために、ネットワークの接続を可能な限り無線から有線に切り替えることで、接続環境は大幅に改善することができた。また、講師のプレゼンテーション資料がカメラ画面を通すと見えにくいと ICT での受講者から指摘があったが、テレビチャット汎用ソフトの付属機能を利用することで見やすさが大幅に改善された。



## 2) ICT 報告会

平成 29 年 8 月 26 日（土）に ICT 活用報告会を開催した。内容の詳細については以下の通りである。

### (1) 本事業の取組みについての事業報告

本事業についての背景と目的、具体的な取り組みと現在までの進捗状況とその成果について説明があった。ICT 活用については、本事業で行っている具体的な活用方法と、使用実績、現在までの成果からみる ICT 活用のメリットについての報告を行った。



### (2) 実践報告

参加者に実際に、ICT を用いた講義がどのように行われているのかを実際の場を体験してもらう目的で、実際にリカレント教育で行っている ICT を活用した「地域密着連携」の授業のグループワークの一部を模擬授業として行った。



### (3) パネルディスカッション

「看護職の“まなび”を広げる ICT 活用の展望」というテーマで、3 名のパネリストを招き、パネルディスカッションが行われた。

#### 【パネリスト】

○明星大学教育学部准教授 今野貴之 氏

「教育工学からみた看護教育における ICT 活用の展望」

○山形県健康福祉部地域医療対策課 衣袋久士 氏

「山形県地域医療構想と看護師への期待」

○小国町立病院看護部長 佐藤三保 氏

「小規模病院における看護職の人材育成の観点から学びの環境を整える」



パネリストから意見発表の後、パネリストを交えてディスカッションが行われた。参加者の多くはリカレント教育の対象施設である県内の小規模病院からの参加であった。ICT活用に対して、設備の問題や使用に慣れていないことから、まだ高いハードルがあると感じているという意見があった。しかし一方で、今回の報告会の参加によってICTの利用により学ぶ気持ちがあればすぐに学ぶことができると感じたという感想もあり、看護教育へのICT利用についての可能性を感じてもらうことが出来た。ICTを継続的に活用していくためには、専用に常設することが重要であり、設備等の環境を整え、使用目的や内容を明確にし、意図をもってICTを活用していくことが重要であるというパネリストからの発言があった。また、1施設だけの問題ではなく、ICTの活用をバックアップしていくような公的なサポートの必要性についても話し合われた。



【パネリスト】

(左) 明星大学教育学部准教授 今野貴之 氏

(中央) 山形県健康福祉部地域医療対策課 衣袋久士 氏

(右) 小国町立病院看護部長 佐藤三保 氏



文責 看護学科講師 樋谷由美子  
看護実践研究センター特任講師 佐藤志保  
看護学科助教 今野浩之

## 6. 事業普及

### 1) ホームページ更新、ホームページコンテンツの見直し、修正

平成 29 年度は、34 回（2 月末時点）のホームページ更新を行った。ホームページの更新は、出来るだけタイムリーな情報が掲載できるようにした。

更新内容としては、プライバシーポリシーの新規作成や協力施設バナー掲載欄の追加・修正、各コンテンツの内容修正、時々の実業の実施結果の記事を掲載した。

### 2) J ナース通信発行

本事業の取り組みについて紙面にまとめた「J ナース通信」を年 2 回（10・2 月）発行した。県内の小規模病院、高齢者施設等や本学看護学科学生の保護者に配布した。また、本事業のウェブページ内でも見る事ができるようにし、紙面とデータの両方から事業普及に努めた。



【第 3 号】



【第 4 号】

### 3) 本事業の紹介

本学の市民向け公開講座や県内高校の授業において、本事業について紹介し事業普及に努めた。

- ・本学公開講座

「『山形発・地元ナース養成プログラム』の取り組み～地域で暮らすあなたを守るために～」

- ・山形県立谷地高等学校「生活と福祉」の授業において

「地元ナース養成プログラムについて理解を深める」



#### 4) ICTデモンストレーションの実施

本事業への認知の拡大や、参加施設の増加を目的とし、県内小規模病院 45 施設に実施案内を送付した。今年度は、8 施設より申し込みを受け、各施設に訪問し ICT デモを実施した。そのうち、4 施設は本事業の協力施設であり、他 4 施設はこれまでブラッシュアッププログラムへの参加のない新規の施設であった。

ICT デモを実施したことにより、協力施設では前年度よりも ICT での受講をスムーズに進められ、協力施設以外では、本事業の紹介も含め、今後に向けて検討していただく機会となった。

#### 5) 交流集会の開催

第 37 回日本看護科学学会学術集会において交流集会を開催し、事業普及に努めた。

「地域住民の砦となる小規模病院等の看護職のキャリア形成—大学との協働によるブレイクスルー—」

(資料) 別紙 8



文責 看護学科講師 槌谷由美子  
看護実践研究センター企画主任 設楽幸江

## 第 37 回日本看護科学学会学術集会・交流集会

## K07

**地元住民の砦となる小規模病院等の看護職のキャリア形成  
－ 大学との協働によるブレイクスルー －**

演題登録番号：10463

発表日時：平成29年12月16日（土）13：30 ～ 14：50

発表会場：仙台国際センター 第10会場 展示棟 会議室2

## 企画者

菅原京子<sup>1)</sup>、佐藤志保<sup>1)</sup>、井上京子<sup>1)</sup>、後藤順子<sup>1)</sup>、槌谷由美子<sup>1)</sup>、高橋直美<sup>1)</sup>、今野浩之<sup>1)</sup>、遠藤和子<sup>1)</sup>、沼澤さとみ<sup>1)</sup>、安保寛明<sup>1)</sup>、渡邊礼子<sup>1)</sup>、齋藤愛依<sup>1)</sup>、豊嶋三枝子<sup>2)</sup>、前田邦彦<sup>1)</sup>、遠藤恵子<sup>1)</sup>

1) 山形県立保健医療大学保健医療学部看護学科

2) 岩手保健医療大学

本交流集会は、文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムの選定事業である山形県立保健医療大学「山形発・地元ナース養成プログラムー地元医療福祉の担い手・住民の砦」（事業推進代表者：前田邦彦学長）の事業成果に基づくものです。

公募で選ばれた本事業のロゴマークです。地元ナース（Jimoto Nurse）の「J」と「N」をモチーフに、ロゴマーク全体を種の形にし、地元ナースの種から芽が出るイメージを表現しました。「J」の赤色の部分は、地元ナースへの熱い思いを表わしています。



## 企画の意図

今日の地方の医療では、地元住民の様々な健康問題に幅広く対応し、地元住民の砦となる「小規模病院等の看護」が鍵となります。しかし、小規模病院等の看護職は多様な経歴を持つ場合も多く、キャリア形成の方法論開発は十分とは言えません。

山形県立保健医療大学は、文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムである「山形発・地元ナース養成プログラム（平成 26～30 年度事業）」の一環として、小規模病院等の看護職を対象とした教育方法・内容の開発に取り組んでいます。具体的には、1. 小規模病院等の看護職が自らの役割を再確認し発展的な看護実践力の向上を図るためのブラッシュアッププログラムとフォローアッププログラムの開発、2. 受講生等の交流の場としてのJナースカフェの開催、3. 小規模病院等の看護職の看護研究相談・支援事業、4. 小規模病院等の看護職と大学の看護教員の間での人事交流、です。その際、大学と遠隔地を双方向性で結ぶICTの効果的活用も実施しています。

昨年度の交流集会では、「山形発・地元ナース養成プログラム」の進捗状況を報告し、看護からの地方創生について検討しました。今年度は、同プログラム活用による小規模病院等の看護職のキャリア形成に焦点を絞って検討します。「山形発・地元ナース養成プログラム」の協力病院である、公立高島病院の竹田和美看護部長と、川西湖山病院の長谷部まゆみ看護部長から話題提供いただきます。両病院ともに私たち大学人の発想を超えた形で「山形発・地元ナース養成プログラム」を活用しています。また、看護学科4年生の新たな実習フィールドにもなっています。

地方の小規模病院等の看護職のキャリア形成における発想のブレークスルーとは何か。「多様な経歴」を強みと捉えることとは。交流集会で率直な意見交換ができることを期待しています。皆様の参加をお待ちしています。

## 公立高島病院と川西湖山病院のご紹介

**公立高島病院** 2015年度から協力病院

私たちは、地域の方々に、質の良い医療を提供し、信頼される病院を目指します

〒992-0351 山形県東置賜郡高島町大字高島386

電話 0238-52-1500 <http://www.takahatahospital.jp/>

130床（一般病棟・地域包括ケア病棟・医療療養病棟）

看護師 85名 介護福祉士 7名

**医療法人社団緑愛会 川西湖山病院** 2014年度から協力病院

自らが受けたいと思う医療と福祉の創造

〒999-0145 山形県東置賜郡川西町大字下奥田3796-20

電話 0238-54-2100 <http://www.ryokuaikai.com>

医療療養病床109床

看護職 36名 介護職 32名（うち、介護福祉士26名）

## 本日のプログラム

全体進行 沼澤さとみ

### 1. 開会

### 2. 山形発・地元ナース養成プログラムにおける小規模病院等と大学の協働の全体像

全体進行：事業推進責任者 菅原京子

協働の取組紹介：

- 学士課程教育における協働（後藤順子、山田香、今野浩之）
- リカレント教育における協働（高橋直美）
- 人事交流における協働（佐藤志保、齋藤愛依）

### 3. 地元住民の砦となる小規模病院等の看護職のキャリア形成—大学との協働によるブレークスルー

全体進行：山形県立保健医療大学看護学科長 遠藤恵子

話題提供：公立高島病院看護部長 竹田和美

川西湖山病院看介護部長 長谷部まゆみ

- 協力病院はチャンス!!
- 看護管理者として：山形発・地元ナース養成プログラム参加者の人選
- 看護職のキャリア形成上、効果があった事例
  - 学士課程教育：実習を受け入れて
  - リカレント教育：新人教育企画
  - 人事交流：大学へ派遣して、教員を受け入れて
  - その他：看護研究の苦手意識の軽減
- 大学と協働することのメリット
- 大学に望むこと

指定発言：山形県地域医療対策課看護師確保対策主査 衣袋久士

フロアとの意見交換 小規模病院等と大学の協働による好循環

### 4. まとめ・閉会

## 同封資料

- 山形発・地元ナース養成プログラム リーフレット
- 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム
- Jナース通信
- 交流集会アンケート



交流集会K07

## 地元住民の砦となる小規模病院等の看護職のキャリア形成 大学との協働によるブレークスルー

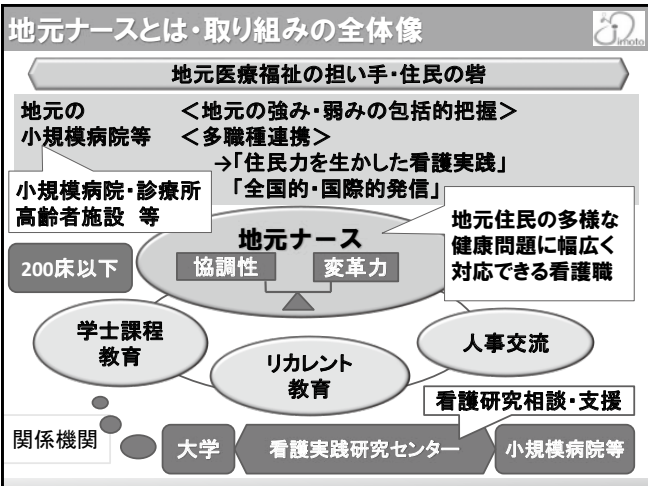
本交流集会は、文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラムである、山形発・地元ナース養成プログラムの事業成果に基づくものです。



## 山形発・地元ナース養成プログラムにおける 小規模病院等と大学の協働の全体像

- 山形発・地元ナース養成プログラムは、文部科学省の課題解決型高度医療人材養成プログラムの選定事業（H26～30年度）
- 目的：小規模病院等で地元住民の多様な健康問題に幅広く対応（含む訪問看護機能）できる「地元ナース」養成のための体系的取り組みを行う。

公立大学法人 山形県立保健医療大学  
事業推進責任者 菅原京子（看護学科）



学士課程教育における協働	
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶大卒の地元ナース養成の教育内容・方法を開発</li> <li>▶地元で就業する価値を理解した学生の育成</li> </ul>
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶科目を新設 地元論：地元で働き地元を創造していく重要性を理解 相互理解連携論：コーチングやファシリテーション等のスキルも扱う ジェネラリズム看護論：地元住民が頼りにする看護師像を探究</li> <li>▶既存科目で地元医療福祉の内容を強化</li> </ul>
協働	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶新設3科目に、小規模病院等看護職が講師として参画</li> <li>▶4年次の総合看護学実習Ⅰの一部で小規模病院をフィールドとした</li> </ul>

学士課程における協働・地元論（後藤順子）	
科目目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶“地元”を考える上での概要と背景の理解する</li> <li>▶自分の“地元”に関心を持ち、概観する</li> <li>▶自分自身や看護の対象者である住民が、自分の“地元”を選び、“地元”で生活していくことの重要性が理解できる</li> </ul>
科目内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶自分の“地元”を知る。他人の“地元”も知る</li> <li>▶“地元”で働くことの意義（卒業生や小規模病院等の看護職を活用）</li> <li>▶“地元”を創造していくことの重要性</li> </ul>
協働	▶小規模病院等に勤務する看護職に講義を依頼 メッセージ（私が地元で働く理由とは、地元の人たちをどう思う等）の発信と学生との意見交換

学士課程における協働・総合看護学実習Ⅰ（山田香）	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○慢性看護学領域を選択した学生：6名のうち2名が地元ナース協力病院で実習</li> <li>○実習病院：川西湖山病院、小国町立病院（それぞれ1週間ずつ）</li> </ul>
	<p>▶実習前の調整：臨地実習指導者・看護部長、担当教員</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①各病院の特徴を踏まえて、学生が実習計画を立案（学内演習）</li> <li>②①と具体的な臨床場面と実習内容をすり合せ</li> <li>③実習環境の整備（指導上の留意点～学生の宿泊・食事手配）</li> </ol>
	<p>▶実習後の評価会議：Ns・臨地実習指導者・看護部長、担当教員</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学生の学習成果の確認と、その成果を導いた実習環境の分析</li> <li>②病院側の利点：学生の疑問から現場の看護実践の課題が抽出</li> <li>③「次、こうしていこう！」という思考・アイデアの交換 ↳ 臨床と大学が協働して実習を創りあげる醍醐味</li> </ol>
	<p>▶次年度へ向けて：実習環境の具体的な整備計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学生が、よりディープに「地元を知る」ための仕掛け</li> <li>②学内の講義との連動（地元論・ジェネラリズム看護論）</li> </ol>

## 学士課程における協働・総合看護学実習 I (今野浩之)

### <実習状況>

#### ◆実習場所

病棟(療養・包括ケア)、地域医療連携室、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、訪問看護、等

#### ◆実習の協働におけるICT活用

実習状況の確認および実習内容に関するカンファレンス

▶ 学生の実習スケジュールの中で、合間を見ながら、実習状況について確認し助言指導を行った。カンファレンス時間は1回あたり20分程度であった。

酒田市本間病院(庄内地域)

約100km

大学

### <成果および課題>

- ・ 遠方の実習において、画像を通して学生の様子を確認でき、日程の変更や実習状況をその都度確認できた
- ・ 学生、指導者、教員三者間でのICT活用の検討が必要
- ・ 院内の電波状況の確認が必要



## リカレント教育における協働

### 事業目標

- ▶ 小規模病院等看護職の発展的な看護実践能力の向上を図るリカレント教育内容・方法を開発
- ▶ リカレント教育修了者が地元ナースのロールモデルとしての役割を担い実習を展開する基盤を形成

### 事業内容

- ▶ 小規模病院等看護フレッシュアッププログラム実施(学校教育法105条対応の120時間教育)
- ▶ 上記のアドバンス教育としてのフォローアップ研修: 8日
- ▶ ナースカフェ: 小規模病院等看護職間の交流の場

### 協働

- ▶ 小規模病院等看護フレッシュアッププログラムの企画と評価
- ▶ フォローアップ研修の一環として、公立高島病院と川西湖山病院合同の新人教育企画・実施

## リカレント教育における協働・フォローアップ研修(高橋直美)

◆ 科目: 指導カススキルアップ・看護研究ステップアップ・地元医療連携ステップアップ

### ◆ 目標

1. 自施設で展開するスタッフ教育を企画できる
2. 研修会を実施するにあたり、関連部署との調整を図ることができる
3. 研修会の企画・実施を通し、スタッフ教育を行うことができる

### ◆ 授業計画

「根拠に基づく看護」<sup>※1</sup>をテーマとした研修会の企画・実施・評価

### ◆ 企画研修内容:

テーマ: 卒後3ヶ月フォローアップ研修

目的: フィジカルアセスメント(呼吸器・消化器)が理解できる

内容: 1) フィジカルアセスメント講義

2) 事例を用いてフィジコ<sup>※2</sup>での演習

3) GW(3ヶ月を迎えての振り返り、研修を受けて今後に生かせること

→付箋紙に書き出し、カテゴリーに分けて貼り出す

4) まとめ・講評

※1 ブラッシュアッププログラム科目 ※2 シミュレーションモデル



## 人事交流における協働

### 事業目標

- ▶ 地元ナース養成に関する大学教員の教育力向上
- ▶ 小規模病院等看護職の大学教育の理解の促進

### 事業内容

- ▶ 小規模病院等看護職→大学: 3日間  
講義/演習に参加、県立中央病院の実習指導の見学
- ▶ 大学教員→小規模病院: 5日間  
病棟ケアに参加、訪問看護に同行、関連施設視察

### 協働

- ▶ 人事交流評価会議による検討  
会議参加者: 協力病院看護部長等と大学  
内容: 人事交流内容の検討  
講義・演習参加の多様なプログラム提供

## 人事交流における協働・大学の受入れ(佐藤志保)

▶ 実施時期(平成29年度): 6月~11月

7コースから複数選択(1コース3日間)

▶ 大学の受け入れ施設: 本事業との協力病院(平成29年度は6施設)  
人事交流の実施に際し、覚書を取り交わす。

### ▶ 実施内容:

コースの内容は、主に講義・実習・授業と実習の混合の3パターン

・ 主な講義: ジェネラリズム看護論、看護倫理、終末期看護論、看護人間関係論、看護教育学、在宅看護概論、等

・ 成人慢性期看護学実習の実習指導の見学(於: 山形県立中央病院)

・ その他: シミュレーター使用体験、文献検索、グループワーク、振り返り、等



## 人事交流における協働・教員として病院へ(齋藤愛依)

### 地域医療を支える病院での実践を通して、地元医療福祉の「今」を知る機会に

▶ 人事交流先: 公立高島病院(平成28年8月の5日間)

内容: 病棟や訪問看護等に参加

○ 実践の場で何が課題となっているか、どんな思いで地域医療に向き合っているのか、知る機会になった。

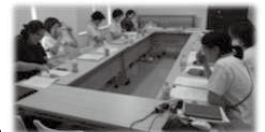
▶ 意見交換: テーマ「地域包括ケア病棟の役割と求められる看護」

病棟や外来、医療療養相談室、訪問看護等の職員

○ 「退院支援を通しての人材育成」⇒様々なケースに対応できる力が看護師に求められていた。

▶ 人事交流を通して:

○ 「小規模病院における退院支援の質向上のための教育プログラム」の研究



研究成果を地域を支える小規模病院の看護師のスキル向上に役立てていきたい。



**住民の砦となる小規模病院等の看護職の  
キャリア形成  
—大学との協働によるブレークスルー—**

<話題提供>

公立高島病院看護部長 竹田和美  
川西湖山病院看護部長 長谷部まゆみ

<指定発言>

山形県地域医療対策課看護師確保対策主査 衣袋久士

<進行>

山形県立保健医療大学看護学科長 遠藤恵子

**公立高島病院と川西湖山病院**



2つの病院は、それぞれ、山形県米沢市に隣接した高島町と川西町にあります。高島町は「泣いた赤鬼」の浜田広介氏の、川西町は井上ひさし氏の出身地です。両町ともに平地と中山間地に、田園と果樹園が広がっています。

公立高島病院: 130床  
看護師85名、介護福祉士7名  
一般病棟、地域包括ケア病棟、医療療養病床  
町訪問看護ステーションと共に在宅医療推進

川西湖山病院: 109床  
看護職36名、介護職32名(うち、介護福祉士26名)医療療養病床のみ  
老人保健施設と訪問看護ステーション併設、近隣にグループホーム

**協力病院はチャンス!! (公立高島・竹田)**

**マンパワー不足、教育資源の乏しい環境、等々で、  
看護実践に関する教育が不十分。「地元ナース」  
の話はチャンス!!**

- 私たちは住民の多様な健康問題に幅広く対応。
- でも、看護専門職として誇りを持って働いている？  
自分の看護は、これでいいの？
- 「地元ナース」で、看護系大学の看護実践教育の実際を体験し、現状の看護を振りかえりたい。科学的根拠に基づいた看護を提供できる看護師を育成したい。

**協力病院はチャンス!! (川西湖山・長谷部)**

**大変嬉しかった。プログラム内容に共感し興味がわいた。  
自病院の成長及び雇用に繋がるチャンス到来!!**

- 小規模病院に目を向けてもらったことが、単純に嬉しかった。
- 当院の教育プログラムは効果的？ 内外の1日の研修の効果とは？ でも、長期研修は人的、経済的に負担。
- 当院の看護職は、地域包括ケアシステムにおける慢性期医療や在宅ケアを担っている当院の役割を認識している？ 役割は遂行できている？
- 「地元ナース」は色々選択でき、日数や時間に余裕があり、継続的なフォローがあることに魅力を感じた。

**協力病院はチャンス!! (川西湖山・長谷部)**

**大変嬉しかった。プログラム内容に共感し興味がわいた。  
自病院の成長及び雇用に繋がるチャンス到来!!**

- 看護実習を受け入れたい。しかし、受け入れる基準や技量、組織体力は？ 教育機関と繋がることで実習病院に近づける。
- 新しいカリキュラムを学ぶ、大学に通う  
→知識技術の向上、職員の自信・モチベーションアップ  
→今どきの新人を受け入れる準備
- 大学で学べることを就職説明会等で話せる  
→雇用拡大につながる

**看護管理者として:人選(公立高島・竹田)**

人選方法	● 当院で定める学習レベルⅡ以上の看護師で職場長の推薦により人選。
意 図	それまで10数年間、当院の看護師採用は、既卒者からの応募しかなく新卒看護師の採用はなかった。 しかし、奨学資金制度利用の第一期生が、次年度から入職予定となっていることもあり、新人教育の見直しと実地指導者の資の向上が必要だったため、指導性、責任性、積極性さらに協調性の高い看護師を選んだ。

**看護管理者として:人選(川西湖山・長谷部)**

**人選方法**

- ブラッシュアップへ、まず、看護主任を2名。主任は病棟の核。2名にしたのは、相談ができ、協力し合え、他職員への情報拡散がスムーズに行えるのではないかと考えたから。
- ブラッシュアップで4名の主任が修了した後、来期主任候補者2名を選定。
- ブラッシュアップの翌年はフォローアップ、次は人事交流という様に長期的、継続的な関わりを意識。

学習による根拠づけと体験による深ぼりができ、実践に繋がれると考えたから。

**看護職のキャリア形成上、効果があった事例**

**学士課程教育:実習を受け入れて**

- 初めての学生実習でブラッシュアッププログラム修了者が5日間の実習プログラムを作成した。他部門とも調整し、病院だけでなく併設施設を含めて実習受け入れができた。(川西湖山・長谷部)

**リカレント教育:新人教育企画**

- ブラッシュアッププログラム修了生と教育委員会が協働した新人教育研修。(公立高島・竹田)
- 他施設の修了生とともに、卒後3か月の看護師のフォローアップ合同研修会を実施。指導力のスキルアップにつながった。(公立高島・竹田)

**看護職のキャリア形成上、効果があった事例**

**人事交流:大学へ派遣して、教員を受け入れて**

- 現在の大学での授業内容を理解し、それを踏まえた上で、実地指導者は事前準備を行い現場の指導に臨んでいる。(公立高島・竹田)
- 人事交流を通して当院の人材育成の課題、展望を考える機会となった。(公立高島・竹田)
- 大学教員を受け入れたとき、「ケアがとても丁寧だ」とほめて頂いた。看護師はもちろんであるが、介護職のモチベーションアップに繋がった。チームケアなので、病院全体に波及効果がある。(川西湖山・長谷部)

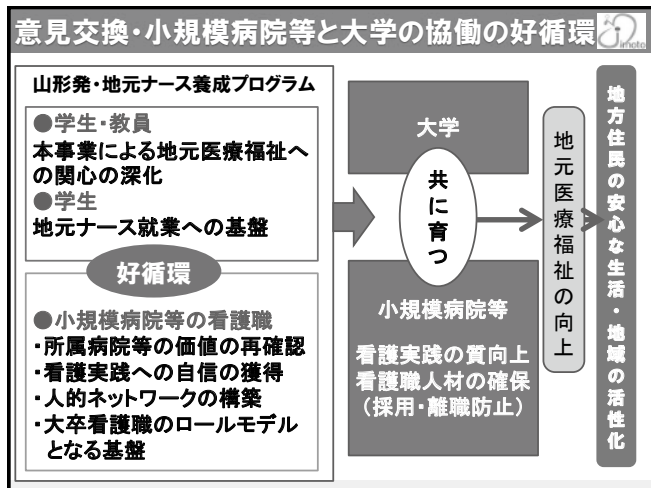
**その他:看護研究の苦手意識の軽減**

**大学と協働することのメリット**

- 素晴らしい教育環境の中で最新の看護実践教育を学んだことでリカレント教育の重要性和看護専門職としての自信を取り戻し、組織の活性化につながった。(公立高島・竹田)
- 大学との連携により、将来的には新人看護師の人材確保につなげていきたい。(公立高島・竹田)
- 最新の情報、学びができる。職員の自信につながる。学生との関わりは新人教育に役立つ。(川西湖山・長谷部)
- 当院看護師が大学で実践報告をしたことで、学生さんが当院の看護に興味を持ってくれた。(川西湖山・長谷部)

**大学に望むこと**

- 本事業に参加させていただき、小規模病院等で働く看護師の「やる気並びに自信喚起」に繋がり、職場としても大きな収穫を得た。事業終了後も何らかの形でこのような取り組みを継続していただきたい。(公立高島・竹田)
- プログラムの継続!! (川西湖山・長谷部)



## 7. 看護実践研究センター

### 1) 看護実践研究センター運営関係

看護実践研究センター運営委員会を下記日程で開催した。

#### ○ 平成 29 年度第 1 回運営会議

開催日時 : 平成 29 年 5 月 30 日 (火) 13:30 ~ 14:30

場 所 : 本学 2 階 202 会議室

出席者 : 菅原運営委員、高橋運営委員、真壁運営委員、佐竹運営委員、遠藤運営委員  
後藤看護相談・支援部会長、井上リカレント教育部会長、槌谷 ICT 活用部会長、  
看護実践研究センター佐藤特任講師、富樫事業推進主査、設楽企画主任

- 議 事 : ①「山形発・地元ナース養成プログラム」中間評価結果について  
②平成 28 年度決算及び平成 29 年度予算(修正)について  
③他大学視察報告  
④「山形発・地元ナース養成プログラム」事業継続検討工程表について

#### ○ 平成 29 年度第 2 回運営会議

開催日時 : 平成 30 年 2 月 27 日 (火) 11:00 ~ 12:00

場 所 : 本学 2 階 202 会議室

出席者 : 菅原運営委員、高橋運営委員、真壁運営委員、佐竹運営委員、遠藤運営委員  
後藤看護相談・支援部会長、井上リカレント教育部会長、槌谷 ICT 活用部会長、  
看護実践研究センター佐藤特任講師、富樫事業推進主査、設楽企画主任

- 議 事 : ①平成 30 年度活動計画について  
②平成 30 年度予算について

### 2) リカレント教育関係

#### (1) 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム

- ・平成 29 年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムを平成 29 年 7 月 25 日 (火) から 9 月 28 日 (木) の間で 20 日間開講した。
- ・規程に則り、小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの受講生を募集し、受講生名簿を作成した。プログラム終了後、履修証明プログラム修了生に対し履修証明書を発行した。単元履修生には、履修結果を送付した。
- ・履修者登録票、履修証明書、履修結果、成績の保管・管理を担当している。



## (2) フォローアップ研修

- ・平成 29 年度フォローアップ研修を 6 月から 12 月の間で 8 日間開講した。
- ・平成 28 年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの履修証明修了生に対し、フォローアップ研修の研修生を募集した。



## (3) J ナースカフェ

- ・J ナースカフェを平成 29 年 12 月 13 日（水）10：00～16：00 に、本学第 4 講義室と情報処理室において開催し、13 名が参加した。
- ・ブラッシュアッププログラム受講生、人事交流研修者を対象に、学習の機会、小規模病院等の看護職の交流・情報交換の場として企画・開催した。（年 2 回の開催で、次回は 3 月下旬を予定）



## (4) 看護 UP TO DATE

- ・小規模病院等看護職を対象とした研修会を、新たに企画している。3 月の開催に向け、準備中である。今回は、診療所に勤務する看護師を対象とした、クリニックナースのスキルアップ「診療所における急変時の看護」を企画している。

## 3) 看護研究相談・支援関係

- ・看護研究相談・支援の案内パンフレット（裏面はブラッシュアッププログラム）を作成し、県内の小規模病院、診療所、高齢者施設等、平成 27・28 年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム受講生に送付した。（1133 ヶ所）
- ・小規模病院等看護職より、看護研究相談や研究に関する研修会の支援の依頼があった際に、相談内容を聞き取りし、適任者への依頼・引継ぎ等を行った。今年度看護研究相談の依頼件数は 29 件、述べ相談回数は 80 件であった。看護研究支援の依頼件数は 3 件であった。（平成 30 年 1 月末現在）

- ・看護実践研究センターにおいて、センターのパソコンを使用し、医中誌、メディカルオンライン、Cinii 等の文献検索エンジンを使用した文献検索の方法や、文献の整理の仕方について、看護研究の相談者に対し説明した。

#### 4) 情報発信関係

##### (1) 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムでの ICT 活用

- ・プログラム開始前に、ICT のデモンストレーションの実施を小規模病院に案内し、申し込みのあった小規模病院に赴き行った。(申し込み施設数は 8 病院。そのうち、新規の病院は 4 病院で、協力病院は 4 病院であった。)
- ・今年度の受講生で ICT 利用しての受講を希望した者に対し、オンラインや電話を使用して、ICT を利用できるようパソコンの設定や説明を行った。
- ・ICT を利用する際の使用説明書を作成し、受講生に配布した。
- ・ブラッシュアッププログラムの開催中に、各受講者と接続、画面の切り替え、音響・カメラワーク等を実施した。
- ・ブラッシュアッププログラムの開催中に、ネットワークの接続トラブルや音声・画像の乱れ等のトラブルが発生した際随時対処した。

##### (2) 総合看護学実習での活用

- ・総合看護学実習において、iPad を学生に貸与し、実習先病院にいる学生と大学にいる担当教員を繋ぎ、実習状況の確認を行った。協力病院における実習では、事業で貸与している PC を用い実習状況の確認を行った。

文責 事業推進責任者 菅原京子 (看護学科教授)  
看護実践研究センター特任講師 佐藤志保

## 8. 事業推進・評価

### 1) 協力施設の募集

本プログラムを展開していくためには、地域の小規模病院や高齢者施設等の協力が欠かせないことから、本学は小規模病院等と「連携に関する協定書」を締結し、本プログラムの各事業に協力して頂く「協力施設」を募集している。

協力施設との連携事項は、以下のとおりである。

- ① 看護実践の向上に関すること
- ② 教育及び研究に関すること
- ③ 人材養成及び人事交流に関すること
- ④ 「山形発・地元ナース養成プログラム」の広報に関すること

昨年度までは7つの小規模病院と1つの高齢者施設とで協定を締結していたが、今年度新たに庄内地域の1つの小規模病院と「連携に関する協定」を締結した。この結果、協力施設の数に8自治体9施設となった。

<協力施設>

施設名	住所	主な診療科目
小国町立病院	西置賜郡小国町あけぼの一丁目1	内科、小児科、整形外科
医療法人社団緑愛会川西湖山病院	東置賜郡川西町大字下奥田 3796-20	内科、整形外科
公立高畠病院	東置賜郡高畠町大字高畠 386	内科、整形外科、産婦人科
特別養護老人ホームはとみね荘	東置賜郡高畠町大字高畠 303	
最上町立最上病院	最上郡最上町向町 64-3	内科、内視鏡科、整形外科
真室川町立真室川病院	最上郡真室川町大字新町 469-1	内科、整形外科、耳鼻咽喉科
特定医療法人敬愛会尾花沢病院	尾花沢市大字臈気 695-3	内科、心療内科
医療法人順仁堂遊佐病院	飽海郡遊佐町遊佐字石田 7	内科、小児科、外科
山形県立こころの医療センター	鶴岡市茅原字草見鶴 51-1	精神科、心療内科

### 2) 第3回事業報告会

本事業の協力施設を対象に、平成29年度に実施した事業について報告会を実施した。協力施設からは、看護職の管理者、リカレント教育や人事交流事業等に参加した看護職の方々に参加いただき、今年度の事業報告及び今後の事業展開について意見交換を行った。

開催日時：平成29年12月6日（水）13時30分～15時

場 所：本学4階 401会議室

出席者：最上町立病1名、公立高畠病院1名、川西湖山病院3名、尾花沢病院2名、  
順仁堂遊佐病院1名、町立真室川病院2名、小国町立病院1名  
本学教職員9名

### 【主な意見】

- ・ ブラッシュアッププログラム、フォローアップ研修、そして今年度は人事交流に参加した。学生の勉強の様子などがわかり、自施設で学生の実習を受け入れる際の参考となった。
- ・ 今年度学生の実習を受け入れたが、学生を受け入れたことでいろいろ勉強となった。この経験は看護師を募集する際に役に立つと思う。
- ・ ブラッシュアッププログラム、人事交流に参加した職員の成長振りが目に見える。
- ・ フォローアップ研修で企画した新人教育の研修を体験した職員が、院内の様々な場面でファシリテーターの役割を果たすようになった。
- ・ 大卒の学生を受け入れることができるように自分たちも成長していきたいと感じている。
- ・ 本院は働きやすい病院として知られており、大学卒の看護師も入職してくるので、このプログラムに参加してよかった。
- ・ 今回の事業は小規模病院に光を与えてくれる事業となっており大学に感謝している。
- ・ 今年度実習に来た学生さんは大変優秀であった。自施設で今後大卒の学生を受け入れることを考えると、自施設で受け入れて果たして教育していけるのだろうかと思うことがある。



事業報告会の様子

### 3) 外部評価委員会

外部の方々から本事業に対する客観的な評価を頂き、次年度以降からの事業実施に反映させるため、本委員会を開催した。多くの方々から評価を頂くため、本年度においても評価委員を1名増員した。

開催日時 : 平成30年2月14日(水) 13:30~15:00

場 所 : 本学2階 202会議室

出席者 : 外部評価委員 5名 (3名欠席)

<外部評価委員の内訳> 県看護担当課長、診療所長、看護協会理事、民生委員、  
小規模病院看護師、保健師、町内会役員

本学教職員 11名

議 事 : ① 個別プログラムの実施状況評価

② 実施目的の達成状況評価

評価結果 : 別紙9のとおり

#### <主な意見>

- ・ 地元の方にとっては顔なじみの看護師さんと言うのは心強い存在であるので、本事業に期待する。

#### 4) 平成 29 年度 事業推進委員会

	開催日時・場所	議題・協議事項 (出席者数)
第 1 回	平成 29 年 4 月 18 日 (火) 9 時 00 分～10 時 00 分 (本学 4 階 401 会議室)	1 開会 2 議題 (1) 平成 29 年度事業推進体制について (2) 平成 29 年度事業計画について (3) 平成 29 年度予算について (4) 協力病院等一覧について (5) 中間評価後の改善計画書について【協議】 (6) 外部評価委員会議事録について (7) 島根県立大学「しまね看護交流センター」視察報告について (8) 平成 29 年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムについて【協議】 (9) 平成 29 年度フォローアップ研修について【協議】 (10) 平成 29 年度人事交流について【協議】 (11) プライバシー・サイトポリシーについて (12) ICT レポートについて 3 その他 4 閉会 (出席者数 18 名)
第 2 回	平成 29 年 5 月 16 日 (火) 9 時 00 分～10 時 00 分 (本学 4 階 401 会議室)	1 開会 2 議題 (1) 平成 29 年度外部評価委員について (2) 平成 29 年度フォローアップ研修について (3) 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムについて (4) ICT 報告会について (5) ICT レポートについて 3 その他 4 閉会 (出席者数 18 名)
第 3 回	平成 29 年 6 月 20 日 (火) 9 時 00 分～10 時 00 分 (本学 4 階 401 会議室)	1 開会 2 議題 (1) 地元ナース養成プログラムの新パンフレット(案)について (2) 地元ナース養成プログラム事業継続の検討について (3) 平成 29 年度人事交流事業について (4) ICT 活用に関するデモンストレーションについて (5) 平成 29 年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムについて (6) ICT レポートについて 3 その他 4 閉会 (出席者数 17 名)



第 4 回	平成 29 年 7 月 18 日 (火) 9 時 00 分～10 時 00 分 (本学 4 階 401 会議室)	1 開会 2 協議事項 (1) ホームページ掲載の実績報告の原稿について (2) 地元ナースネットワークの今後の方向性について (3) ICT 活用報告会の運営について 3 報告事項 (1) 平成 29 年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム開講式について (2) 平成 29 年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム受講生の概要について (3) 平成 29 年度人事交流事業について (4) 平成 29 年度看護研究相談・支援の申し込み状況について (5) ICT レポートについて 4 その他 5 閉会 (出席者数 16 名)
第 5 回	平成 29 年 8 月 22 日 (火) 9 時 00 分～10 時 00 分 (本学 4 階 401 会議室)	1 開会 2 協議事項 (1) ICT 活用報告会の運営について 3 報告事項 (1) 平成 29 年度人事交流事業について (2) ホームページ掲載の実績報告の原稿について (3) ICT レポートについて 4 その他 5 閉会 (出席者数 14 名)
第 6 回	平成 29 年 9 月 19 日 (火) 9 時 00 分～10 時 00 分 (本学 4 階 401 会議室)	1 開会 2 議題 (1) 前期までの自己評価等について (2) ICT 活用報告会について (3) 最終報告会の運営について (4) ブラッシュアッププログラム閉講式について (5) ICT レポートについて 3 その他 4 閉会 (出席者数 14 名)
第 7 回	平成 29 年 10 月 17 日 (火) 9 時 00 分～10 時 00 分 (本学 4 階 401 会議室)	1 開会 2 協議事項 (1) 前期までの事業評価について (2) 外部評価委員の変更について (3) 最終報告会の開催について (4) 平成 30 年度総合看護学実習 I について 3 報告事項 (1) ブラッシュアッププログラムの実施結果について (2) 看護研究申し込み状況について (3) 協力病院について (4) J ナースカフェの開催について (5) J ナース通信について (6) ICT レポートについて

		<p>4 その他</p> <p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">(出席者数 16名)</p>
第 8 回	<p>平成 29 年 11 月 21 日 (火)</p> <p>9 時 00 分～10 時 00 分</p> <p>(本学 4 階 401 会議室)</p>	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 人事交流評価会議及び第 3 回事業報告会について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日程案</li> <li>・ 人事交流評価会議次第案</li> <li>・ 事業報告会次第案</li> </ul> <p>(2) 診療所看護職対象の研修会開催について</p> <p>(3) 平成 30 年度の総合看護学実習 1 の実習要項について</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 協力病院の追加について</p> <p>(2) 最終報告会担当者会議について</p> <p>(3) ICT レポートについて</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">(出席者数 17名)</p>
第 9 回	<p>平成 29 年 12 月 19 日 (火)</p> <p>9 時 00 分～10 時 00 分</p> <p>(本学 4 階 401 会議室)</p>	<p>1 開会</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 今後のスケジュールについて</p> <p>(2) 平成 30 年度の事業計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度別事業調書</li> </ul> <p>3 報告事項</p> <p>(1) 平成 29 年度人事交流評価会議の概要</p> <p>(2) 第 3 回事業報告会の概要</p> <p>(3) 第 37 回日本看護科学学会学術集会・交流集会について</p> <p>(4) 平成 29 年度フォローアップ研修について</p> <p>(5) 第 3 回 J ナースカフェについて</p> <p>(6) ICT レポートについて</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">(出席者数 15名)</p>
第 10 回	<p>平成 30 年 1 月 16 日 (火)</p> <p>9 時 00 分～10 時 00 分</p> <p>(本学 4 階 401 会議室)</p>	<p>1 開会</p> <p>2 協議事項</p> <p>(1) 外部評価委員会開催案及び外部評価委員の追加について</p> <p>(2) 年度別事業計画書の見直し結果について</p> <p>(3) 山形発・地元ナース養成プログラム最終報告会について</p> <p>(4) 平成 29 年度活動報告書作成について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①平成 29 年度活動報告書作成スケジュール</li> <li>②平成 29 年度活動報告書作成分担</li> </ul> <p>3 報告事項</p> <p>(1) ICT レポートについて</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p> <p style="text-align: right;">(出席者数 15名)</p>

第 11 回	平成 30 年 2 月 20 日 (火) 9 時 00 分～10 時 00 分 (本学 4 階 401 会議室)	1 開会 2 協議事項 (1) 平成 30 年度事業計画について (2) 平成 30 年度予算案について 3 報告事項 (1) 平成 29 年度外部評価委員会の概要について (2) ICT レポートについて 4 その他 5 閉会  (出席者数 19 名)
第 12 回	平成 30 年 3 月 20 日 (火) 9 時 00 分～10 時 00 分 (本学 4 階 401 会議室)	1 開会 2 議題 (1) 平成 30 年度予算について (2) 文部科学省への提出物のスケジュールについて (3) 看護 UP TO DATE 研修会について (4) 地元ナースフォーラムについて (5) ICT レポートについて 3 その他 4 閉会  (出席者数 18 名)

文責 看護実践研究センター事業推進主査 富樫栄一  
看護実践研究センター企画主任 設楽幸江

## 「山形発・地元ナース養成プログラム」事業評価表（4月～1月）

(S：計画を上回っている A：計画を十分に実施している B：計画を十分に実施していない C：計画を実施していない)

## 【学士課程教育】

計画	実施状況	成果と今後の課題	評価	
			自己	委員
<p>○ 4月 「地元論」「相互理解連携論」「ジェネラリズム看護論」の開講</p>	<p>○＜地元論＞            地元論は、“地元”の概要を理解し、個人々の“地元”に対する理解と愛着を深めることを目的としている。1年生59人が履修登録を行った。前期は2回の授業を行った。前期の授業では県内の自治体の都市機能形成の担当者から地区の中核病院周辺のまちづくり構想に関する説明を受けたのち、「私たちが住みたいまちとは」のテーマでグループに分かれ、まちづくりについて検討を行った。後期は、3回にわたり地元で働くこととの意義を考察させるために、県内で働く看護師、助産師、保健師から話を聞き意見交換を行った。また、自分の地元を知るために自分の地元の文化的背景について各自探求した。            ＜ジェネラリズム看護論＞            ジェネラリズム看護論は、人々の多様な健康問題を理解し、地方の小規模病院等で求められる看護を探求することを目的としている。履修登録を行った2年生25人の他、履修登録していない聴講学生3人も参加した。前期は、地方に暮らす人々の健康問題とニーズについて、看護師、社会福祉士・MSW、理学療法士、ケアマネージャーと言った複数の職種によるパネルディスカッション形式で講義を行った。後期は、地方の小規模病院における地域に求められている看護活動の実際として、ジェネラリストナースと看護管理者からの実践活動報告ののち、学生とのディスカッションを行った。</p>	<p>【新設3科目】            成果；3科目いずれも学内教員の他、非常勤講師を加え学生が参加型の教育方法により学生の学習を深めることができた。            ＜地元論＞ 学生の感想から、全体を通して、人が生活するとは何か、その生活を深めてには何が必要かなどについて考察を深めていることが伺えた。また、“地元”について、学生それぞれは自分の言葉で表現できていたことから、“地元”の概念を理解できていると考える。            ＜ジェネラリズム看護論＞ 学生の感想から、職種間の視点の類似と相違があること、多面的に捉える必要があること、その中で看護が期待されるニーズの考察を深めていくことが伺えた。また、医療資源の乏しい地域の中で、地元住民の多様な健康問題に対して、教科書どおりでなく創造した看護活動を行い、様々な機関と協働連携することの重要性を理解できていると考える。            討議の際、人事交流事業で参加した看護師からの発言で、具体的な実践例をさらに理解できたと考える。            ＜相互理解連携論＞学生の感想から、自分の考えを伝え、相手の考えや気持ちを理解することの重要性を学ぶことができたと考え</p>	A	A

<p>○ 6月 27・28年度リカレント教育修了生の小規模病院での総合看護実習開始。修了生がいない小規模病院等でも地元医療福祉を強化した実習実施</p>	<p>8回の講義中4回は、人事交流事業で大学に派遣された小規模病院の看護師も聴講し、学生との討議に参加した。</p> <p>&lt;相互理解連携論&gt;</p> <p>個人・集団・地域等の連携の基礎や実際について、保健医療福祉分野以外も含めて広く理解することと、保健医療福祉分野で推進される多職種連携に適応できる考え方や能力を培うことを目的としている。2年生45人が履修登録を行った。相互理解の基本である人の見方を理解するイメージ交換ゲーム、医療職に必要な相手の気持ちを理解し自分の気持ちを表現する医療コミュニケーションを学ぶプレイバックシアター、個人の持つ情報や能力を共有し共同作業する必要性を理解するコラボレーションゲームといったゲーム形式による演習を行った。</p> <p>プレイバックシアターにはリカレント教育のフロロアップ研修受講者である小規模病院の看護師4人がファシリテーター役で参加した。</p>	<p>る。先輩看護職であるフロロアップ研修受講生が演習に参加したこと、学生にとって看護職のロールモデルとなっていたようである。</p> <p>課題；①履修学生数が、1年次開講の地元論は約9割であったが、2年次開講のジェネラリズム看護論は約4割、相互理解連携論は約7割であった。ジェネラリズム看護論では履修登録をせずに聴講を希望する学生もいたため、科目内容を学生に周知し、多くの学生が履修できる仕組み、時間割配置の検討が必要である。</p> <p>②3科目の学生の評価をふまえ、より効果的な教育を目指す</p> <p>課題への取組方針；①同時間にはほかの科目が入らない時間割作成を教務学生課に依頼する。科目内容を学生に周知する機会を年度当初に設け、各科目の意義や目的がイメージしやすい内容の案内とする。</p> <p>②30年度の科目のシラバスに反映させる。</p>	
<p>○ 【修了生のいる病院での総合看護学実習Ⅰ】</p> <p>&lt;総合看護学実習Ⅰ（成人慢性期）&gt;</p> <p>小国町立病院と川西湖山病院で、3人ずつ実習を行った。今年度から初めて実習施設となった小国町立病院では地域包括ケア病棟、一般病棟及び訪問看護、併設する老人保健施設に加え、病院で実施している「まちかど看護相談室」で実習した。川西湖山病院では、病棟、併設する介護老人保健施設、グループホームに加え訪問診療にも同行し実習した。</p>	<p>【修了生のいる病院での実習】</p> <p>成果；修了生のいる3施設で実習を行うことができた。看護師が医療施設から地域に向き健康相談をしながらアセスメントし、その場で健康教育の実施という、地域住民の健康を保持増進する看護の役割を理解した。施設と在宅の連携と継続の実際の理解を深めた。</p> <p>規模は小規模でありながら地域のニーズ</p>		

＜総合看護実習Ⅰ（在宅）＞

公立高島病院で1人が実習した。公立高島病院では今まで本学を含め全く実習を受け入れたことのない病院であったが、看護部と修了生が協力して実習受け入れ準備を行ってくれた。実習学生がテーマとしている退院支援・地域連携を学ぶため、地域包括ケア病棟を中心に急性期病棟、訪問看護部門で実習し、リハビリテーションシヨンスタッフとの同行訪問も行った。又、地域包括支援センターとの事例検討の機会もあった。

【修了生のいない病院での総合看護学実習Ⅰ】

＜総合看護実習Ⅰ（在宅）＞

本間病院と鶴岡協立病院で各1名が実習した。急性期病棟、包括ケア病棟等の施設内及び訪問看護と病院の持つ様々な部署で実習した。  
本間病院の実習では、ICTを使用して実習指導を行った。

に合わせ多様な機能を果たして地域住民の健康を包括的に守っている医療機関の役割や、それらの機能の連続性協働連携の実際を理解できた。その地域出身の学生は、小規模病院の活動を初めて知ったという感想を述べていたことから、小規模病院の存在を学生に周知させる機会となった。

リカレント教育の実施により、施設側からも実習を引き受けたいという意向が強かった。リカレント教育修了生は人事交流事業にも参加していたこともあり、本学の教育課程や学生の理解度を理解したうえで、大学教員とともに実習内容を検討し、中心となって実習指導に当たった。リカレント教育や人事交流における成果が反映されたと考える。

【修了生のいない病院での実習】

成果：これまでの実習施設という点もあり、実習目標を理解していただき、学生は実習目標を達成できた。  
課題；この3年間試行として実施した実習で、小規模病院等を実習施設として、実習目標を達成できることは確認できた。今後は実習施設を増やすこと、実習場が遠距離であるため、通学及び宿泊の手配など、学生配置を検討する必要がある。  
課題への取り組み方針；リカレント教育修了生を増やし、リカレント修了生のいる施設の管理者にも働きかけて実習施設を拡大する。学生の希望や状況を十分把握して学生

<p>○ 10月 新設3科目と30年度の総合看護実習による教育の成果項目の検討</p> <p>○ 10月 30年度以降の既存科目において、地元医療福祉社の内容を強化できないか検討</p> <p>○10月 31年度以降の実習計画を策定し、実習施設に実習依頼</p> <p>○10月 30年度の総合看護実習Ⅰの地元ナース領域について、実習要項等具体的な内容や担当者、実習施設の検討</p>	<p>○ 新設3科目と総合看護学実習により「すべての学生が卒業時点で地元で就業する価値を理解できる」ことを到達目標とすることを確認した。その到達目標を評価するための項目の具体的な検討を今後行うことを確認した。</p> <p>この到達目標に向け、総合看護学実習Ⅰ 地元医療福祉コース（地元ナース）実習要項について検討した。実習の目的、目標、場所、内容について検討し、学科教員に周知し学生にオリエンテーションを行った。</p> <p>○ 30年度前期に実施する総合看護実習Ⅰの実施状況、30年度のリカレント教育状況を見て、31年度の計画を策定する。</p> <p>○ 各領域・各科目で今年度の評価を行い、次年度に向け授業内容を検討した。</p>	<p>配置に生かす。</p> <p><b>【教育成果項目の検討】</b>      成果；事業開始当初は、目指す教育成果に対して本当にこれだけでよいのか自信がないところがあつたが、3年間新設3科目を行う中で、学生教育課程で地元ナースを養成することの意味と目指す方向性が固まり、最終的な到達目標を確認することができた。</p> <p>課題への取り組み方針；到達目標の達成度を評価できる具体的な評価項目の検討を行う。</p>	
--	--	--	--

【リカレント教育】

計 画	実施状況	成果と今後の課題	評 価	
			自己	委員
<p>○ 8月 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム開始（～9月）</p>	<p>○ 受講生が45名であった。その内訳は、全科目受講予定者が14名（本年度だけの受講予定が10名、本年度と次年度合わせて1名、昨年度と本年度合わせて3名）であった。全科目受講予定者のうち2名が欠席した科目があったため、全科目を受講した者（昨年度と今年度の2年間で前者を含め）は、11名となった。</p>	<p>【ブラッシュアッププログラム】 成果；昨年度より全科目受講生が増え、履修証明書交付の対象者（履修証明書を交付するか否かは看護学科教員会議で決定）は、11名と前年度の2倍に増えた。 課題；やむを得ない都合による欠席があったため、全科目履修に至らなかった受講生がいた。（履修証明書の交付対象は2年間で全科目を履修としているので、これに該当しない場合は履修証明書の交付とはならない。） 課題への取組方針；欠席事由等と履修期間の延長等について検討を行う。</p>	S	S
<p>○ 5月 ブラッシュアッププログラム受講生にフォローアップ研修案内送付</p>	<p>○ 昨年度のブラッシュアッププログラムで履修証明書の交付を受けた7名に対し、フォローアップ研修の案内を送付した。</p>	<p>【フォローアップ研修】 成果；指導力スキルアップ研修では、研修生が実際に研修会の企画から運営まで行うことが出来、管理者からも高評価を得た。又、研修生からも今後活かせる研修であったとの反応があった。 看護研究ステップアップ研修では、ブラッシュアッププログラムでの計画を継続して進め、調査の実施、発表まで行うこと</p>		
<p>○ 6月 フォローアップ研修実施（～11月）</p>	<p>○ 対象者7名中、5名がフォローアップ研修を受講した。 前期は指導力スキルアップ研修と看護研究ステップアップ研修を行った。 昨年度の振り返りを基にブラッシュアッププログラムをフォローする研修となるように研修内容を整理し、指導力スキルアップ研修では、研修生が卒業後3か月の職員を対象とした「卒業3か月フォローアップ研修」を企画し、公立高島病院、</p>			



<p>○ 10月・1月 29年度受講生追跡調査</p>	<p>川西湖山病院の卒後3か月の職員を対象に公立高島病院で開催した。 看護研究ステップアップ研修では、各自看護研究経計画書を作成し、後期が始まるまでの期間で調査を実施する目標に取り組んだ。事前に調査に取り組んだことで、実施から発表まで行い、最終日に各自結果を発表することができた。 地域医療連携ステップアップ研修では、学部学生の授業「相互理解連携論」を受講し、ファシリテーション、コーピング・コミュニケーションスキル等の演習に参加した。</p>	<p>が出来た。研修生からは「苦手意識が軽減された」、「職場での実践や指導に繋げることが出来そうだ」との声が聞こえた。 地域医療連携ステップアップ研修では、演習に積極的に参加し、プレイバックシアターという新しい演習に取り組み、「コーピングやファシリテーション、コミュニケーションスキルなどの振り返りが出来た」、「自分自身の行動に取り入れて行きたい」等の声が聞かれ、現場に活かせる内容になった。</p>	
<p>○ 3月 27・28年度受講生追跡調査</p>	<p>○ 平成29年度小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの受講生に対し10月に満足度調査を、1月に3ヵ月後調査として受講生と履修終了生（履修証明書被交付者）の上司にアンケート用紙を送付した。現在分析中である。</p> <p>○ 履修証明書被交付修生を対象に、グループインタビュー調査を実施予定である。1月に倫理審査で承認されたので、3月に調査が実施できるよう準備を進めている。</p>	<p>課題；研修期間は長いですが、実際の大学の研修は8日間であること、勤務しながらの受講であることから、研究等、気持ちなどが途絶えないような働きかけが必要である。 課題への取扱方針；メールやFAXなどを活用し、質問があれば適宜受けると言った支援を行う。</p>	

<p>○ 3月 ブラッシュアッププログラム 案内送付</p>	<p>○ 3月 「看護 up to date 研修会」の 開催</p>
	<p>○ 受講希望はあるが、勤務の関係上ブラッシュアッププログラムへの参加が難しいと言う声を受け、小規模病院等の看護職の多様なニーズにフレキシブルに対応するため、「看護 up to date 研修会」を開催する。 今年度は3月18日(日)に、診療所の看護職を対象に「クリニクナーススキルアップ“診療所における急変時の看護”」の開催を予定している。 次年度は年2回(6月、12月)開催する予定である。</p>

【人事交流】

計 画	実 施 状 況	成 果 と 今 後 の 課 題	評 価	
			自 己	委 員
<p>○ 8月 大学と小規模病院等の人事交流実施（～11月）</p>	<p>○ 今年度人事交流を実施する6病院（「大学から病院へ」1病院、「病院から大学へ」6病院）とそれぞれ「職員研修に係る覚書」を取り交わした。大学から病院へは5日間の日程で9月に小国町立病院に教員1名を派遣した。 病院から大学へは3日間の日程を7コース組み立て、7コースから1ないし複数のコースを選択することができる交流計画を立てた。 その結果、6月28日～30日に尾花沢病院、10月3日～5日に最上町立最上病院、10月10日～12日に川西湖山病院、公立高島病院、小国町立病院、10月24日～26日に尾花沢病院、順仁堂遊佐病院、公立高島病院、11月15日～17日に川西湖山病院、順仁堂遊佐病院から職員が来学し人事交流を実施した。</p>	<p>【人事交流の実施】 成果；今年度は病院から大学への日程を7コース組み立て、複数回交流できるようにしたところ、研修日数が増え、前年度からの課題であった研修人数の増加を図ることができた。 又、1つのコースに複数名が参加できたことにより、小規模病院の看護師同士の交流もでき繋がりが拡大した。 課題；人事交流のニーズが多岐にわたっているもので、大学での受け入れの内容が研修者や看護管理者のニーズを満たすものになっているか検討する必要がある。 課題への取組方針；研修者の意見・要望等を聞くと共に、12月に開催する人事交流評価会議において看護管理者のニーズを捉え、双方からの情報を基に内容を検討し充実させる。</p>	A	A
<p>○ 12月 実施病院等の院長・看護部長との懇談会により評価</p>	<p>○ 12月6日（水）に人事交流評価会議を開催した。今年度人事交流を実施した6病院の看護部長に加え、実施しなかった1協力病院も出席した。 更に本プログラムの現状を把握していただくため、県の健康福祉企画課の職員からも出席していただいた。 会議では人事交流事業についての意見交換の</p>	<p>【人事交流実施病院との懇談会】 成果；人事交流事業の成果、課題、今後の実施方法等について、忌憚のない意見交換ができた。又、協力施設の大部分の看護管理者が出席したので、補助期間終了後の本プログラムの今後についても十分な意見交換が出来た。 課題；病院から大学への人事交流における研</p>		

<p>○ 12月 30年度人事交流を希望する 小規模病院等の意向確認・調整</p>	<p>ほか、補助金期間終了後の本プログラムの今後についても意見交換が行われた。</p> <p>○ 人事交流評価会議に合わせて、平成30年度の人事交流の希望、人事交流の内容についての意見の聴取を行った。</p>	<p>修内容について改善点についての要望があった。</p> <p>又、補助期間終了後の本プログラムの継続を期待する意見が多く寄せられた。課題への取組方針；病院から大学への人事交流の研修内容については、座学と実習の組み合わせる、学生や教員とのディスカッションを組み入れる等の改善を行うこととする。</p> <p>補助期間終了後の本プログラムの継続については、大学としては継続について県に要望しているところである。</p>	
<p>○ 30年度人事交流を希望する 【30年度人事交流についての意向確認】</p>	<p>○ 人事交流評価会議に合わせて、平成30年度の人事交流の内容についての意見の聴取を行った。</p>	<p>【30年度人事交流についての意向確認】 成果；人事交流事業に関して大学側と病院側との意見調整が行われた</p> <p>その結果、人事交流の日程については、今年度と同様に大学側で複数の日程を提示することとした。研修内容については、座学と実習の組合せ、学生や教員とのディスカッションを組み入れる等の改善を行うこととした。</p>	

【看護研究相談・支援】

計 画	実 施 状 況	成 果 と 今 後 の 課 題	評 価	
			自 己	委 員
<p>○ 常時 看護研究相談・支援事業</p>	<p>○ 昨年度からの継続は4件、新規申し込みは26件あり、現在29件（中断1件）の研究支援を行っている。 なお、小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムで「看護研究の基礎」の受講生より、プログラム終了後に看護研究の相談の申し込みがあった。</p>	<p>【看護研究相談等】 成果；毎年10件を超える新規の研究相談があり、看護研究相談・支援事業の周知が定着してきている。 課題；新規に看護研究相談を申し込む施設はあまり増加していない。 課題への取組方針；看護研究相談の広報を施設のみに向けて発信するのではなく、例えば、県内で開催される研修会や研究発表会、学会等においてポスターやチラシ等で周知を図るように、個人の目にも留まるように工夫を行う。 小規模病院等看護ブラッシュアッププログラムの「看護研究の基礎」の科目においても、看護研究相談・支援について説明を行う。</p>	A	A
<p>○ 随時 看護研究に係る研修会の開催</p>	<p>○ 1施設から研修会の申し込みがあった。年間を通して全3回の企画であり、全て実施した。 12月13日に開催した「Jナースカフェ」において、午前の研修会を「エクセルを使ってみよう」と題し、実際にパソコンを使った研修とした。</p>	<p>【研修会の開催】 成果；依頼先の企画と要望に沿って研修を実施できている。 「Jナースカフェ」での研修会は実際にパソコンを使用してエクセルの使用方法を学ぶ内容であり、参加者から満足度の高い感想が得られた。「もっと学びたい」、「今後活用できそう」との声が聞かれた。 課題；研修会の開催依頼が新規の施設からはない。</p>	A	A

<p>○ 6月～11月 フォロワーアップ研修での「看護研究スナップアップ研修」の実施</p>	<p>○ 看護研究相談・支援チームの教員が、6日間計15時限の講義・演習を担当した。講義・演習では各研修生の看護研究について、各々の進捗状況に合わせて指導・支援を行った。また、メールを用いても指導・支援を行った。</p> <p>今年度は発表することを目標に各自が研究を進め、研修最終日には、調査を実施して得られた結果を整理し発表した。</p>	<p>課題への取組方針；支援について認知されていない可能性があるので広報の方策を検討する。</p> <p><b>【フォロワーアップ研修での研修・支援】</b>  成果；研修期間中に、研究計画書の作成から調査、発表までを行うことが出来た。</p> <p>研修後の感想では、「研究への苦手意識が軽減した」、「今後また研究に取り組みたい」などの前向きな姿勢が伺えた。又、スタッフへの指導に行かせる等と各自が自信を持つことが出来た様で、自施設でのリーダー役を担う人材になっていくと思われた。</p> <p>課題；仕事の都合で継続して研修に参加できない研修生への支援が課題である。</p> <p>課題への取組方針；メール、ファックス等での支援等、本人の意志に応じ補習的な支援を行う。</p>	
--	---	--	--

【ICT活用】

計画	実施状況	成果と今後の課題	評価	
			自己	委員
<p>○ 5月 学生の実習におけるICT活用を実施</p>	<p>○ 総合看護実習Ⅰの実習期間中、実習場所2か所において9日間の実習期間中、各4回ICTを活用した。内容としては、学生と教員の二者間での実習状況の確認及び実習内容に関するカンファレンスであった。</p>	<p><b>【実習でのICT活用】</b>            成果；遠方の実習において、学生の様子、日程変更や実習状況を逐一確認することができた。又、今年度は実習施設2施設でICTを使用することが出来た。            課題；昨年度、通信状態が良好であった環境でも今年度は不良と言うケースがあったため、安定した通信状況の確保が課題である。又、教員、学生、実習指導者の三者間のカンファレンスも検討していたが、指導者の時間的な都合もあり、三者間の活用までには至らなかった。            課題への取組方針；通信状況の改善については、有線の使用や事前の通信状況の確認など、安定した環境に向けて今後も環境整備を行っていく。三者間のカンファレンスについては、施設や指導者の協力が不可欠であるので、日程等について事前に検討し調整を行う。</p>	A	A
<p>○ 9月 ICT活用報告会開催</p>	<p>○ 平成29年8月26日（土）にICT活用報告会を開催した。ICT活用について、これまでの成果を発表・報告するとともに、実践報告としてリカレント教育で行っているICTを活用したグループワークを模擬授業として行った。又、パネルディスカッションでは「看護職の“まなび”を広げるICT活用の展望」をテーマとして、3名のパネリストから有識</p>	<p><b>【ICT活用報告会開催】</b>            成果；多くの参加者はリカレント教育の対象者である県内の小規模病院からの参加者であった。参加者にICTを用いた講義がどのように行われているのかを模擬授業をとおして体験して頂くことが出来た。            研修会に時間をかけて参加しなくても、</p>		

<p>○ 随時 リカレント教育及び看護研究 相談・支援における ICT 活用を実施</p>	<p>者、行政、看護管理者と言う立場からの意見をもとにディスカッションを行った。</p> <p>○平成 29 年度の小規模病院等看護ブラッシュアッププログラム全 21 単元の内、ICT で受講可能な単元は 14 単元となり、すべての単元で ICT での受講の希望があった。今年度 ICT を利用した受講者は延 100 名であった。</p> <p>看護研究相談・支援における ICT の活用は、現在、相談・支援を行っている施設が近辺であることから活用には至っていない。</p>	<p>ICT の利用により、学ぶ気持ちがあればすぐに学ぶことができると感じたと感じるという参加者の感想もあり看護教育への ICT 利用の可能性を感じてもらったことができた。</p> <p>課題；参加者全員が県内に限られており、県外からの参加者がいなかった。</p> <p>課題への取組方針；告知時期が遅くなったことも一因として考えられるため、今後の報告会等の開催については告示を早期に行う。</p> <p><b>【リカレント教育等での ICT 活用】</b></p> <p>成果；ネットワークの接続を可能な限り無線から有線に変えることで接続トラブルを最小限にすることができ、接続環境は大幅に改善できた。又、ICT での受講者から言われていた、カメラ画面を通すと講師のプレゼンテーション資料が見えにくいと言っていることに関しては、テレビチャット汎用ソフトの付属機能を利用することで、見やすくなった。</p> <p>課題；ICT 使用時の通信接続状況を安定した状態に維持すること。</p> <p>課題への取組方針；安定した通信接続状況の確保のために今後も接続環境の整備調整を進めていく。</p> <p>又、看護研究相談・支援における ICT 活用については、今後遠方施設からの相談・支援で活用できるように操作マニュアル等の充実を図る。</p>	
---	---	---	--



<p>○ 随時 保守・運用サービス点検</p>	<p>○ 学生の実習及びブラッシュアッププログラムにおける ICT 活用において、複数回の通信不良は見られていたが、機器等の故障等の大きなトラブルはなかった。</p>		
-------------------------	---	--	--

【事業普及】

計画	実施状況	成果と今後の課題	評価	
			自己	委員
<p>○ 随時 ホームページ更新、ホームページメンテナンスの見直し、修正</p> <p>○ 随時 本事業の評価・効果に関する研究を関係学会に発表及び論文投稿</p>	<p>○ ホームページは1月末までに31回の更新を行った。更新内容としてはプライバシーポリシーの追記やバナー掲載欄の修正、ブラッシュアッププログラムの内容修正、時々の事業の実施結果の記事などである。</p> <p>○ 9月9日に第20回北日本看護学会学術集会（於：山形大学医学部）にて、「山形県内の診療所に勤務する看護師の学習ニーズ」について発表した。又、12月16日～17日に開催された第37回日本看護科学学会学術集会（於：仙台国際センター）において、交流集会（「地元住民の岩となる小規模病院等の看護職のキャリア形成一大学との協働によるブルークスルー」の実施と「山形発・地元ナース養成プログラム」におけるリカレント教育効果一履修証明修了生の職場上司による評価一）の発表をした。更に平成30年3月8日に開催される第44回山形県公衆衛生学会（於：山形県看護協会）において、5題の発表を予定している。</p>	<p>【ホームページの更新】 成果；ホームページのタイムリーな更新がなされている。 課題；閲覧回数がより一層増えるように興味を引くような工夫が必要である。 課題への取組方針；ホームページ担当者間で工夫できる点を模索していく。</p> <p>【学会発表】 成果；発表時、本事業の取り組み（リカレント教育）について質問があり興味・関心を寄せてもらえる内容であったと思われる。 交流集会では協力病院の看護管理者からの発表や本事業に参加した看護師からの意見や感想が述べられ、又、交流集会参加者との活発な意見交換が行われ、事業を推進していく上での有意義な会となった。 課題；学会発表の予定はあるが未だ論文投稿には至っていない。 課題への取組方針；論文投稿については、現在準備中である。できるだけ早く準備を進め投稿を行う。</p>	A	A

<p>○ J ナース通信発行（年2回、10月・2月）</p>	<p>○ 「J ナース通信第3号」は10月に発行し、関係各所に送付した。「J ナース通信第4号」は、2月に発行する予定で、現在印刷会社からの初稿待ちである。なお、「J ナース通信」は小規模病院等への送付の他、本学教育振興会発行の「ほほえみ」の発送時に同封し、学生の保護者に発送している。</p>	<p><b>【J ナース通信発行】</b>      成果；小規模病院等に配布している「J ナース通信」が一般の方の目に留まっているように、紙媒体での本事業の広報活動は功を奏していると思われる。      課題；更に多くの方の目に触れるようにしていきたい。      課題への取組方針；内容の充実を図ると共に、協力病院等の意見を聞きながら配布計画を練っていく。</p>
<p>○ 6月 大学の市民向け公開講座で本事業紹介</p>	<p>○ 6月17日（土）に開催された大学の公開講座において、『山形発・地元ナース養成プログラム』の取り組みへ地域で暮らすあなたを守るために〜のテーマで講演を行い本事業の紹介を行った。</p>	<p><b>【公開講座】</b>      成果；一般市民に対して本事業の取り組みを伝える機会となった。</p>
<p>○ 7月 ICT デモンストレーションの実施</p>	<p>○ 6月に ICT のデモンストレーションの実施案内を小規模病院45施設に送付し、訪問デモの申し込みを受け付けた。その結果8施設から申し込みがあり、訪問し ICT のデモンストレーションを実施した。申し込みのあった8施設には協力病院以外でこれまでブラッシュアッププログラムへの参加のない新規の病院が4施設あった。      デモの実施内容は下記のとおりである。      ①作成した手引きを基に使い方を説明する。      ②初めてハンダアウトを行う施設には、グループのアカウントを作成し、プラグインのダウンロードを行う。      ③看護実践センターとハンダアウトを行い、実</p>	<p><b>【ICT デモ】</b>      成果；ブラッシュアッププログラムの開講前にデモを行うことが出来、受講生の ICT 利用をスムーズにすることが出来た。合わせて、これまで本事業に関わりがなかった病院に対し本事業を説明する機会にもなった。      課題；本事業の拡大のためにも、もっと多くの病院にデモに伺うことが重要と感じた。      課題への取組方針；単年度で終了することなく、次年度も今年度と同様か若しくはもう少し早い時期に希望を募り病院に</p>

<p>○ 9月 高校の授業で本事業を紹介</p> <p>○ 12月 協力施設を対象に29年度の事業報告実施</p>	<p>際にパワーポイント、動画の画面共有、チャットを実施した。</p> <p>○ 9月25日に、山形県立谷地高等学校3年生「生活と福祉」の授業において、「地元ナース養成プログラムについて理解を深める」のテーマで本事業の紹介を行った。</p> <p>○ 12月6日（水）に協力病院の看護部長や本事業に参加した看護師の方に来学していただいて、事業報告会を開催した。本学関係者のほか参加者は協力病院側が11名であった。</p> <p>各事業に参加しての意見や感想、本プログラムに関する意見や要望等、様々な意見交換を行うことが出来た。</p> <p>来年度が本プログラムの終了年度であるが、プログラムの継続を望む意見が多く寄せられた。</p> <p>○ 3月中の発行、送付を念頭に、原稿の執筆を各チームリーダー等に依頼している。</p>	<p>訪問しデモを実施する。</p> <p><b>【高校での授業】</b>      成果；自分の地元で働くことや自分を見つめなおすきっかけになったようであった。高校3年生が今後の進路を考える上での視野が広まった様である。</p> <p><b>【事業報告会の実施】</b>      成果；本プログラムに実際に参加された方々の率直な意見が聞け、本プログラムの意義を再確認できた。</p> <p>大学と協力施設が一同に会して話し合うことにより、本プログラムの一層の充実が期待される。</p> <p>課題；一部出席できなかった協力施設もあつた。</p> <p>課題への取組方針；開催日程の調整を速めに行う。</p>	
<p>○ 活動報告書発行</p>			

【事業推進・評価】

計 画	実施状況	成果と今後の課題	評価	
			自己	委員
<p>○ 9月 各専門チームの事業評価実施</p> <p>○ 2月 推進委員会で、前年度の事業評価を実施</p> <p>○ 2月 外部評価委員会開催。評価結果をホームページで公表</p>	<p>○ 9月の事業推進委員会において9月末までの事業実施状況、成果、課題等を記載し、自己評価を行うように各チームリーダーに依頼し、10月の事業推進委員会において各チームの実施状況を評価した。</p> <p>○ 1月の事業推進委員会で、1月末までの事業実施状況、成果、課題等を記載し、自己評価を行うよう各チームリーダーに依頼した。</p> <p>○ 平成29年度の外部評価委員会は2月14日に開催することとしている。評価結果については、速やかにホームページで公表を行うこととしている。</p>	<p>【事業評価実施】</p> <p>成果；年度の中間において各チームに自己評価を求めることにより、各チームの責任体制が図られた。</p> <p>各チームの自己評価結果は概ね、「A」評価であり、順調に事業を実施していることが伺えた。</p> <p>課題；各チームの事業全体としての自己評価が「A」であっても、個々のものの中には、まだやり切れていないもの（事業成果の論文投稿等）もある。</p> <p>課題への取組方針；来年度が最終年度であることから、やり切れていないことについて、常に念頭において事業を進めていくようにする。</p>	A	A

<p>○ Jナースカフェ開催（年2回程度）</p>	<p>○ 平成29年12月13日（水）に第3回Jナースカフェを開催した。午前は研修会「量的研究の分析について学ぼう！～実際にみんななでエクセルを使ってみよう」、午後に「地元ナースで受けた研修を職場で活かすために」をテーマにワールドカフェを行った。第3回の参加者は13名であった。平成29年度の2回目は3月下旬に開催することとしている。内容は検討中である</p>	<p><b>【Jナースカフェ】</b>      成果；研修会の要素が入ることで、学びたいというニーズに応えることができている。新たな参加者が増えていること、複数回の参加者も一定数いることにより、交流の範囲が広がると共に相互理解も深まったようである。      課題；今後も継続して実施できるように実施内容の充実と参加者確保のための工夫が必要である。      課題への取組方針；参加者への実施後アンケートを活用し、参加者の興味を引くような内容の組み立てにする。また、早めに開催を案内する。</p>	
---------------------------	--	---	--

【就職先開拓】

計 画	実施状況	成果と今後の課題	評価	
			自己	委員
<p>○ 随時 学内の学生支援委員会との連携を図り、採用計画の情報収集、就職ガイダンスを実施する。</p> <p>○ 10月 保護者への本事業のパンフレット送付</p>	<p>○ 5月20日に就職ガイダンスを実施した。当日は30施設が参加し、看護学科3年生及び4年生が参加した。</p> <p>8月22日に医療体験セミナーで、鶴岡協立病院と、こころの医療センターを訪問した。</p> <p>採用情報や奨学金の情報を随時に掲示し、学生に活用を促している。</p> <p>○ 「Jナース通信10月号」を10月に本学教育振興会発行の「ほほえみ」の送付に同封し、保護者へ送付した。(看護学科1年生から4年生251通)</p> <p>なお、2月に発行する2月号についても同様に送付することとしている。</p>	<p>【就職ガイダンス等】</p> <p>成果；就職ガイダンスは多くの施設と学生が参加し、熱心に情報交換していた。</p> <p>課題；学生の希望は大きな病院が多く、小規模病院への関心は若干低い。</p> <p>課題への取組方針；小規模病院等の特徴がよくわかるように、学生の参加を促した。又、小規模病院の良さを再発見する意味で、医療体験セミナーとして概ね200床の医療機関をセミナーの対象とした。</p> <p>【Jナース通信の送付】</p> <p>成果；学生の保護者に本事業の趣旨、実施状況を周知することができ、又、地元の小規模病院への関心を喚起することができた。</p> <p>課題；特になし。</p>	A	A

## 公立大学法人山形県立保健医療大学「地元ナース養成プログラム事業」推進委員会規程

平成 27 年 4 月 7 日

規 程 第 1 1 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人山形県立保健医療大学の組織及び運営に関する規則（平成21年規則第 1 号）第10条第 2 項の規定に基づき、本学が文部科学省から助成を受けた課題解決型高度医療人材養成プログラム「山形発・地元ナース養成プログラム」事業（以下「養成事業」という。）の確実な推進を図るため設置する、養成プログラム事業推進委員会（以下「事業推進委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第 2 条 事業推進委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 教職員の中から学長が指名する者
- 2 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員のうちから理事長が指名する。
- 3 学長は、養成事業を総理する。

(所掌業務及び会議)

第 3 条 事業推進委員会は養成事業に係る次の業務を所掌する。

- (1) 養成事業の進行管理
- (2) 養成事業の年次計画の作成
- (3) 次条に定める専門部会間の調整
- (4) 前号の専門部会の事業評価
- (5) 養成事業の外部評価の実施
- 2 事業推進委員会の会議は、養成事業に関わる担当者全員の参加とし、原則毎月開催する。

(専門部会)

第 4 条 事業推進委員会に、養成事業を着実に推進するための専門部会として、次のチームを置く。

- (1) 学士課程教育チーム
- (2) リカレント教育チーム
- (3) 看護研究相談・支援チーム
- (4) ICT活用チーム
- (5) 人事交流チーム
- 2 前項各号のチームのリーダー及び構成員は学長が定める。
- 3 専門チームは定期的に運営会議を開催する。

(事業推進責任者等事業推進体制)

第 5 条 学長は、養成事業の円滑な実施を図るため、事業推進責任者を定めるとともに、事業推進に関わる教職員の役割等事業推進体制を明示するものとする。

(事業の評価等)



第6条 各専門チームは概ね6か月に1度、自ら事業点検を行うものとする。

2 事業推進委員会は、年1回、各専門チームの事業点検に基づき事業評価を行うものとする。

3 事業推進委員会は、年1回、次条に定める外部評価委員会を開催し、養成事業についての外部評価を受けるものとする。

(外部評価委員会)

第7条 養成事業の実施状況等について、学外からの評価を受けるため、外部評価委員会を設置する。

2 外部評価委員会の委員は行政、医療施設、関係団体等から選任するものとし、学長が委嘱する。

(その他)

第8条 この規程に定めるものの他、養成事業の推進に関し必要な事項は、事業推進委員会で定める。

附 則

この規程は、平成27年4月7日から施行し、課題解決型高度医療人材養成プログラムの終了をもって廃止する。

## 山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営規程

平成 26 年 10 月 31 日  
規 程 第 1 8 号

(趣旨)

第 1 条 この規程は、公立大学法人山形県立保健医療大学の組織及び運営に関する規則（平成21年規則第 1 号）第 7 条第 2 項の規定に基づき、山形県立保健医療大学看護実践研究センター（以下「実践センター」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 実践センターは、県内の看護職を対象に看護継続教育、研究指導、情報発信等を行うことにより、本県における看護実践水準の向上を図ることを目的とする。

(業務)

第 3 条 実践センターは、その目的を達成するために、次に掲げる業務を行う。

- (1) 看護職を対象とした実習指導力養成教育
- (2) 看護職を対象とした実践力向上のためのフォローアップ教育
- (3) 看護研究に関する相談・指導等の支援
- (4) 看護実践・研究に関する情報発信
- (5) その他実践センター長が適当と認めた業務

(職員)

第 4 条 実践センターに、実践センター長及びその他必要な職員を置く。

- 2 実践センター長は、看護学科教員の中から学長が任命する。
- 3 実践センター長は、第 3 条各号に定める業務について掌理する。
- 4 実践センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。
- 5 実践センター長が任期満了前に辞任し、又は欠員となった場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(実践センター委員会)

第 5 条 実践センターの円滑な運営を図るため、実践センターに次の委員会を置く。

- (1) センター運営委員会
  - (2) センター実施委員会
- 2 前項の委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(委任)

第 6 条 この規程に定めるもののほか、実践センターの運営に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

(施行期日)

この規程は、平成 26 年 11 月 1 日から施行する。

## 山形県立保健医療大学看護実践研究センター委員会要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、山形県立保健医療大学看護実践研究センター運営規程（平成26年規程第18号）第5条第2項の規定に基づき、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）及びセンター実施委員会（以下「実施委員会」という。）の運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(運営委員会の構成等)

第2条 運営委員会は、理事（総務担当）、研究・地域貢献等推進委員会委員長、看護実践研究センター長（以下「実践センター長」という。）及び学長が指名した教職員で構成する。

2 運営委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の中から学長が指名する。

3 第1項の委員のうち、学長が指名する委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員として指名された委員の任期は前任者の残任期間とする。

4 学長は必要があると認める場合は、第1項の委員の他に教職員の中からオブザーバーを指名することができる。

(運営委員会の審議事項)

第3条 運営委員会は次の事項を審議する。

(1) 看護実践研究センター（以下「実践センター」という。）の活動計画に関すること

(2) 実践センターの予算・決算に関すること

(3) 実践センターの評価に関すること

(4) 実践センターと学内委員会等との調整に関すること

(5) その他実践センターに関する重要事項に関すること

(運営委員会の会議)

第4条 委員長は運営委員会の会議（以下「会議」という。）を招集し、その議長となる。

2 会議は委員の3分の2以上の出席がなければ開くことができない。

3 会議の議事は出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長の決するところによる。

4 会議には、必要に応じ委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(実施委員会)

第5条 実施委員会は、実践センター長の下、次の各号の部会で構成するものとし、各部会はそれぞれ各号に定めた業務を所掌する。

(1) リカレント教育部会 小規模病院等に勤務する看護職を対象とした看護実践力向上のための教育プログラムの開発検討及び実施

(2) 看護研究相談・支援部会 小規模病院等に勤務する看護職の看護研究に関する相談・指導等の企画及び実施

(3) ICT活用部会 リカレント教育及び看護研究相談等におけるICTの活用の検討及び機器等の管理運営

(実施委員会の構成等)

第6条 前条各号の部会のメンバーは、教職員の中から学長が指名するものとし、うち1名を部会長に任命する。

2 各部会の会議は定期的に部会長が招集するものとする。

(部会長会議)

第7条 実践センター長は、必要に応じ各部会長で構成する部会長会議を開催するものとする。

2 部会長会議では、各部会における実施状況の報告や各部会間の調整事項等について協議する。

(庶務)

第8条 運営委員会及び実施委員会の庶務は、実践センターにおいて処理する。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、各委員会について必要な事項は別に定める。

#### 附 則

1 この要綱は、平成27年6月4日から施行する。

2 山形県立保健医療大学看護実践研究センター委員会要綱（平成27年2月3日制定）は廃止する。

3 第6条第1項の各部会のメンバーについては、「山形発・地元ナース養成プログラム事業」の助成期間にあつては、それぞれ同事業における「リカレント教育チーム」、「看護研究相談・支援チーム」及び「ICT活用チーム」のメンバーとし、部会長は同チームリーダーを充てるものとする。

平成 29 年度 事業推進委員会名簿

氏名	所属・職名	役割
前田 邦彦	学長	事業推進代表者
菅原 京子	看護学科教授	事業推進責任者
鈴木 あけみ	事務局次長（兼）総務課長	事業推進補佐
大瀧 亜樹	事務局教務学生課長	学士課程教育チームメンバー
鹿間 麻里江	事務局総務課 図書・調整主査	事務担当者
遠藤 恵子	看護学科長・教授	学士課程教育チームリーダー
遠藤 和子	看護学科教授	学士課程教育チームメンバー
後藤 順子	看護学科教授	看護研究相談・支援チームリーダー
沼澤 さとみ	看護学科教授	人事交流チームメンバー
井上 京子	看護学科准教授	リカレント教育チームリーダー
安保 寛明	看護学科准教授	看護研究相談・支援チームメンバー
高橋 直美	看護学科講師	リカレント教育及び学士課程教育チームメンバー、
槌谷 由美子	看護学科講師	ICT 活用チームリーダー、学士課程教育チームメンバー
今野 浩之	看護学科助教	ICT 活用及びリカレント教育チームメンバー
渡邊 礼子	看護学科助教	ICT 活用チームメンバー
齋藤 愛依	看護学科助教	人事交流チームメンバー
佐藤 志保	看護実践研究センター 特任講師	看護実践研究センターチームメンバー 人事交流チームリーダー、リカレント教育、 看護研究相談・支援、ICT 活用チームメンバー
富樫 栄一	看護実践研究センター 事業推進主査	看護実践研究センターチームメンバー
設楽 幸江	看護実践研究センター 企画主任	看護実践研究センターチームメンバー ICT 活用チームメンバー

平成 29 年度 看護実践研究センター運営委員会名簿

氏名	職名
菅原 京子	運営委員長；看護実践研究センター長
高橋 亘	運営委員；理事（総務担当）
真壁 寿	運営委員；情報・図書委員会委員長
佐竹 真次	運営委員；学生部長
遠藤 恵子	運営委員；看護学科長
後藤 順子	看護研究相談・支援部会長；看護学科教授
井上 京子	リカレント教育部会長；看護学科准教授
槌谷 由美子	ICT 活用部会長；看護学科講師
佐藤 志保	人事交流部会長；看護実践研究センター特任講師
富樫 栄一	看護実践研究センター事業推進主査
設楽 幸江	看護実践研究センター企画主任

文部科学省 平成 26 年度  
課題解決型高度医療人材養成プログラム」採択事業



「山形発・地元ナース養成プログラム」  
平成 29 年度 活動報告書

平成 30 年 3 月発刊

発行 公立大学法人山形県立保健医療大学 看護実践研究センター  
〒990-2212 山形県山形市上柳 260 番地  
TEL・FAX 023-686-6614

